

かぐらおか

(題字は初代学長 山田守英氏)

第 141 号

平成22年 5月31日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課



チューリップ公園 (上湧別町)

(写真撮影：学生支援課)

新入生を迎えて……………吉田 晃敏…… 2	医学科第 1 学年 高橋 佑輔……11
医学科新入生を迎えて……………立野 裕幸…… 5	看護学科第 1 学年 熊谷 れみ……12
看護学科ご入学を祝して……………稲葉 佳江…… 6	看護学科第 1 学年 高橋 美穂……12
平成22年度医学科入学者名簿…………… 7	外国人留学生在籍者一覧……………13
平成22年度看護学科入学者名簿…………… 8	平成22年度大学院入学者名簿……………13
平成22年度看護学科第 3 年次編入学者名簿…………… 8	平成21年度後期授業評価……………14
新入生を迎えて	平成21年度 学位記授与式 ……………34
医学科第 6 学年 佐藤 雅…… 9	平成22年度 入学式 ……………35
看護学科第 4 学年 福西 彩加…… 9	平成22年度 医学科・看護学科新入生合同研修会 ……35
旭川医科大学に入学して	計 報……………36
医学科第 1 学年 石堂 敬太……10	教員の異動……………36
医学科第 1 学年 島袋 朋乃……10	医大祭2010のご案内……………36
医学科第 1 学年 数井 翔……11	



新入生を迎えて

学 長 吉 田 晃 敏

旭川医科大学に晴れて入学された、医学科第一学年112名の皆さん、看護学科第一学年60名の皆さん、同じく看護学科第三学年編入生10名の皆さん、ご入学おめでとうございます。本学を代表し、心から皆さんのご入学を祝福し歓迎します。

皆さんは今、大きな希望と期待を胸に、ここ旭川医科大学の門をくぐって来られました。医師を志す人、看護職者を目指す人、あるいは研究者を目指す人もいるでしょう。合計182名の新入生、それぞれが、182通りの夢を描いて、本学に入学されてきたと思います。

これからは、ここ、旭川医科大学が、皆さんの「夢の舞台」です。「共に学び」、そして「時に助け合い」ながら、21世紀を担う、「良識ある医療人」を目指して、切磋琢磨して欲しいと強く願います。

今、日本は深刻な医師不足です。特に北海道は深刻な状態です。新しい研修医制度のため、大学の研修医が激減するなど、深刻な医師不足が、地方を中心に起こっています。最近、北海道第二の都市、ここ旭川市でさえも医師が足りないのです。

また、入院患者7人に対し、1人の看護師を配置する、いわゆる「7：1看護体制」を国が推奨した事で、看護師も慢性的に足りない状況が続いています。

私は、学長に就任以来、この医師不足・看護師不足の問題に、本当に心を痛めて来ました。それは、私達の旭川医科大学は、「地域医療に貢献するために」スタートした大学だからです。私はその第一期生で、我々卒業生の多くは、今も「高い志」を持って、地域医療の最前線で活躍しています。私は、何としても、この医師不足・看護師不足を解消しなけ

ればと、強く心に誓って来ました。

そのため本学は、ここ2年間、入試制度の抜本的な改革を進めて来ました。政府が、「医師を増やす」方針へと舵を切ったのを機に、本学も昨年度は医学科で12名の定員を増やし、加えて、ここ北海道の地域医療にもっと貢献出来るように、「道北・道東枠」や「AO北海道枠」などの、本学独自の「地域枠」を設けました。その結果、昨年の医学科102名の入学生のうち、実に72名が、北海道出身者となりました。北海道出身者が70パーセントを超えたのは、最近20年間の中ではなかった事です。

また今年度の入試では、医学科で更に10名の定員を増やしました。北海道の地域医療を守るために、ここ2年間で実に22名の入学定員を増やしました。

さて、今年度の入試結果では、医学科112名の入学生の内、北海道出身者は昨年より6名増の78名で、約7割です。3年前は、北海道出身者は31名、3割でしたが、今年度は、その2.5倍の78名でした。定員も増え、北海道地域枠も大きくなった中、皆さんは、このチャンスをとらえて、見事、旭川医科大学の門をくぐったわけです。

一方で、「看護師不足」もまた深刻で、各地で十分な看護体制が組めない状況が続いています。本学の病院では、「7：1看護体制」の承認を取るために100名を超す看護師を増員しました。

このような、極めて深刻な状況の中、皆さんは本学に入学しました。この「現在皆さんが置かれている状況」を、今改めてもう一度、胸に深く刻んで下さい。

本学の仲間になったのですから、私たち教職員は、今後全身全霊を込めて、皆さんの夢を応援していく事をお約束します。

そこで、これからは、皆さんに是非約束してほし

い事があります。それは、「全身全霊を込めて、学問する」という事です。

医学の世界は、覚えなければならない事・学ばなければならない知識は「膨大にある」と同時に、先端医療の分野は日々進歩していますので、その進歩を、自分で一生涯学び続ける能力を、学生時代に磨かなければなりません。

皆さんは、旭川医科大学に入学した事で、「医師や看護職者になるという夢が叶った」わけではありません。今はまだ、「夢の実現に向けて、ようやくスタートラインに立つ資格が与えられた」だけなのです。今後毎年、進級試験に合格し、そして国家試験に合格しなければなりません。

こういう基本的な事は申し上げたくありませんが、実は、ここ毎年成績不良による留年者が出ています。昨年度の看護学科の1年生60名は、しっかり勉強して全員が進級出来ました。しかし、医学科1年生は10名が進級出来ませんでした。一昨年度の医学科1年生は13名が進級出来ませんでした。本当に残念でなりません。

皆さんは国立大学の学生であり、国の「税金」を使わせてもらいながら、ご両親の「少ない自己負担」で、「最高水準の教育」を受けているのだという事をしっかりと自覚して下さい。そして、教える人を敬う気持ちを持って下さい。そうすれば、集中して講義を聴くようになり、授業を怠けたり出来ないはずです。

大学は、高校とは、全く違います。覚える量が、数十倍違います。皆さんが、自分自身で勉強をしない限り、進級は出来ないのです。

大学は、皆さんのために、図書館も整備しました。インターネットも自由に使える「学生サロン」も作りました。最新型のコンピュータもそろっています。私の時代、37年前とは比べものにならない、素晴らしい設備が整っています。

しかし、毎年、多くの学生が留年している。勉強が足りなさ過ぎます。今年の留年した1年生の中には、何回も試験をしているにもかかわらず合格点に

達しなかったり、再三の注意にもかかわらずレポートを提出しなかったりして留年した学生がいます。

これらの状況は、新入生も、ご父母の皆さんも、良く認識して頂き、来年この様なことが起こらないようにして頂きたいと思います。皆さんが積極的に自学自習する事で、知識や情報を得、自ら考える姿勢を養う事を願います。

入学生の皆さん。皆さんを今、多くの患者さん達が待っています。1日でも早く医師に・看護職者になって下さい。

医師や看護職者になれる人は、社会の中のごく僅かです。皆さんはその意味で、素晴らしいチャンスを与えられました。そのチャンスを、是非、皆さんを待っている、多くの患者さんのために生かして欲しいのです。人の命を「本当に預かるに値する」医療人になれるのか、それともなれないのかは、皆さん自身にかかっています。

さて、少し明るい話題を提供したいと思います。まず、本学では昨年、医学科も看護学科も新しい最高のカリキュラムがスタートしました。私達教職員が、専門家も交えながら、丸2年間かけて討論を重ねた結果出来あがった、まさに皆さんのために作り上げたカリキュラムです。

看護学科では、三つの大きな変革を行いました。一つ目は、「早期体験実習」を新しく取り入れた事です。1年生の5月には医学科と合同で行います。2年生の夏には、「医療保健福祉施設の現場」を体験します。地域貢献への関心を深める事、コミュニケーション能力を磨く事を目指しています。

二つ目は、「看護実践の力を強化する」ため、実習時間を増やしました。臨床、臨地の実習を充実させました。

三つ目は、専門の基礎となる科目を充実させました。例えば、「対人関係」、「家族看護」、「医療安全」、「がん看護」、「国際保健看護」など、時代のニーズを先取りした、とても素晴らしい内容です。期待して下さい。

一方、医学科では、四分野、すなわち基礎教育、基礎医学、臨床医学、共通科目を整備しました。ま

た、「自学自習の学習態度」を養う、チュートリアル教育、早期体験実習、健康弱者のためのプログラムが、切れ目なく配置されています。

また、医師には、「研究者としての視点」、これも大変重要です。少人数で研究室に入り、医学の進歩のために必要な「研究」について、実際に学び、先生方と一緒に研究できる「医学研究」、これも、大変モチベーションが上がる、新しいカリキュラムの目玉です。

次に、本学では、今、将来を見据え思い切った改革をスタートさせております。

一つは、ドクターヘリです。本学は、協力基幹病院として、運行体制を強力にバックアップしています。このドクターヘリが、今、新たな展開を示し、旭川医科大学に今年の秋にも「救命救急センター」が設置されるという、別な大きな一歩を踏み出しました。

また一方で、この4月から、道立北見病院に「循環器内科・呼吸器内科医」を送り、その後、旭川医科大学が「オホーツク循環器・呼吸器センター」を経営するという、全く新しい地域医療の支援体制を、作りあげることが決まりました。これらの我々の決断により、「私達の旭川医科大学は、地域医療を決して見捨てない！」という、強烈なメッセージを改めて発信しました。

今、皆さんの胸にこみ上げている熱い思いを決して忘れずに、旭川医科大学の「広大なキャンパス」で、勉学に励み、皆さんの夢を、実現させて下さい。

最後に、基本的なことを一つだけ述べます。それは、「コミュニケーション能力」についてです。

医師として、看護職者として、「仮に最高の技術」を身につけたとしても、「他者とのコミュニケーション」が出来なければ、その人は「最善の医療人」ではありません。友人や先輩、そして教員に対する「挨拶」一つを取ってみても、その人のコミュニケーション能力が試されています。

この、最も基本的な「挨拶」の意味するものは、その人の「他者への配慮」です。

壁にぶつかった友人、自分のために時間を割いてくれた先輩、そして、自分達のお世話をしてくれている教職員に対し、常に「挨拶」を忘れないで下さい。

勉強の場で、あるいはクラブ活動の場で皆さんが学ぶこの「コミュニケーション能力」は、卒業後に「患者さん達と向き合う中」で、最も重要な、皆さんの「武器」になるかも知れません。

人を癒すのは、ある時は「技術」であり、ある時は「薬」です。しかし、他者への「配慮」があつてこそ、その「技術が生き」、その「薬が生きてくる」のです。だからこそ、「医は人なり」なのです。

是非、今の良きスタート時から、医療人としての「自覚を、明確に持って」、先ず、「自分自身を変え」、「自分から勉強する習慣を作り」、「物事に積極的に取り組む姿勢」、そして「他者への配慮を欠かさないコミュニケーション能力」、これらを、身につけて欲しいと願います。

さあ、将来の医師・看護職者を目指す皆さんへ寄せられる社会の期待は、未だかつてない程に高まっています。この社会情勢をチャンスと捉え、「将来、国民の期待に応えられる医師・看護職者」を目指して、頑張ってくださいと強く願います。

有意義な、そして充実した学生生活を送って下さい。

旭川医科大学は、皆さんを応援しています。

皆さん一人ひとりの活躍を心から祈念し、学長からの、心からの歓迎と激励の言葉と致します。



医学部 医学科新入生を迎えて

医学部 第1学年担当 立野 裕 幸

医学部新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんは旭川医科大学医学部の第38期生としてスタートを切ったわけです。今は医学部受験の重圧から解き放たれ、新しい環境の中で課外活動を始めたり、新しい友人との出会いを楽しんだりと開放感に浸っている頃かもしれません。その開放感が消えるにつれ、医学部の勉強についていけるだろうかと不安を抱いたり、日々の講義や実習を負担に感じたりすることがあるかもしれません。そのような時にはどうぞ気軽に研究室を訪れてください。

さて、皆さんは小学校の6年間で「児童」として、中学・高校の6年間で「生徒」として過ごし、大学に入学して「学生」と呼ばれる身分になったのです。しかしながら、本当の意味での学生になるのはこれからです。入学後のガイダンスで、多くの教員から、医師とは最善の医療を提供するために生涯に亘って勉強を必要とする職業であること、そのためには今までの受身的な勉強ではなく、自学自習の態度を身に付けるように言われたことはまだ記憶に新しいことでしょう。皆さんも、それに応えるべく、勉学に向けての強い志や目指すべき医師像を熱く語ってくれました。ところが、最近の2年間をみてみますと、1学年から2学年へ進級することが高い壁になっています。試験につまずいた学生に話を聞いてみると、「取り組むのが遅かったために表面的な勉強しかできなかった」、「用語の意味を正確に理解していなかった」、「このくらいの勉強でいだろうと自分勝手に思い込んでしまい、要求されるレベルにまで自分の理解度が到達していなかった」という答えが返ってきます。どうやら「理解する」とはどのようなことを十分に理解していないように思われます。わたくし教員は授業内容に関して皆さんからの質問に対応する時間（オフィスアワー）を設けています。教員室は何となく敷居が高いと感じている学生も多いようですが、今はバリアフリーの時代です。ぜひオフィスアワーを活用し、理解力アップに努めてください。オフィスアワーの時間帯など詳しい情報は履修要項に書かれています。

自学自習の態度を身に付け、最大限の学習効果を

発揮するためにはスキル（技）も必要です。以下は、米国で学生向けに出版されたヒトの生物学入門コースの教科書の序章に書かれている一般的な勉強スキルです。

- ・静かで、ほどよい明かりのついた場所で勉強する。
- ・テレビやラジオは消す。
- ・机やテーブルの上で勉強する。
- ・毎日の勉強時間を決めてスケジュールをきちんと守る。
- ・一番頭の冴えている時間に勉強する。
- ・適切に休憩をとる。
- ・ひと区切り勉強を終えたら、自分の中で自分を褒めたり、軽くお菓子を食ったりして自分にご褒美をあげる。
- ・試験のための詰め込み勉強を避けるため、毎日それぞれの科目を少しずつ勉強するようにする。
- ・意味がはっきりしない用語や言葉が出てきたら、教科書や辞書などの用語集を確認する。

すべて当たり前のことですが、一度に実践するのは難しいかもしれません。まずはできることから始めてみてください。1人でコツコツと勉強するのに加え、グループ学習を取り入れることも大切だと思います。その中で情報交換したり、足りない知識を補い合ったりすることができるからです。そうすることで自分がどの程度学習内容を理解しているかも見えてくると思います。

さらに、生活の基盤を整えて健康を維持することも大切です。ヒトを含め多くの生物はサーカディアンリズムと呼ばれるおよそ24時間サイクルの生体リズムを持っています。自律神経活動やホルモン分泌など多くの身体的精神的機能がこのリズムと関連しています。睡眠覚醒のリズムもその1つです。生体リズムと矛盾拮抗するような生活を送ることはできる限り避けましょう。

医学生としての自覚を持って、まずは最初の1年間を有意義に過ごせるよう願っています。

(生物学教授)



看護学科ご入学を祝して

看護学科 第1学年担当 稲葉佳江

ご入学おめでとうございます。

念願の旭川医科大学医学部看護学科に入学し、大学生としての出発点に立ち、新たな誓いと希望、期待をもって入学式を迎えられたことと思います。また、ご家族や友人、その他多くの方々にも生まれ、温かい支援や励ましを頂くことで学生生活をスタートできたことに感謝の気持ちを忘れないで頂きたいと思えます。

さて、皆さんは大学で何を学ぶのでしょうか。

大学は学問することを通じて教養を深め、社会性豊かな人間力を培うところです。皆さんには、社会人として医療人として成長するために自然・人間・社会の知識体系、看護・医療の基礎知識や考え方をしっかり身に付けてもらいたいと思えます。そのために、皆さんが4年間で修得しなければならない知識・技術は計り知れないほどのものがあります。

しかし、4年間の学びのなかでもっと大切なことは、教員から問われる問題の多くには一つの正答がなく、皆さん一人ひとりが基礎知識を活用しながら答えを発見することです。大学での学びは自ら問いを立て、答えを導き出すという発見への過程にあるということを肝に銘じて頂きたいと思えます。問題や答えの発見力は単なる知識の集積では身に付きません。知識や物事に対する理解力や感性、分析と再編・総合できる思考力、さらに物事の本質を見抜く洞察力によるものです。これらの能力は授業のみでなく、大学生活のなかの多様な知的刺激によって引き出されるものであり、これこそが「教養」の源なのです。教養とは、自らを客観化しながら多角的に物事を見て、問題の本質や答えを発見しながら自ら正しいと信じる道を見つけ出すことのできる力であ

り、人が一生かけて追求し続ける人間性そのものであると思います。4年間を通じて、友人や家族、教員やその他の親しい人々と大いに語り合い、人間的な問題と対峙し自らの問いを発見し、自分らしい解決のあり方を見つけて頂きたいと願っています。この体験が皆さん一人ひとりの可能性を豊かにし、教養に満ちた人間力を培っていくと確信しています。

看護師・保健師・助産師をめざすという道は、看護学という学問を通じて、また看護実践という人間活動を通して、教養豊かな人間性を追求する道なのです。その道筋は決して安易なものではなく、時として苦しみ、悩み、葛藤する困難を伴うものかもしれません。今、皆さんの抱いている他者に「やさしい」「思いやる」「共感できる」などの看護職者への感性的理解は看護の本質であり、真理であると思えます。この真理の追求を道しるべに、今後遭遇するかもしれない多くの困難に挑戦して頂きたいと願っています。

最後に、先人の残した「学びの精神」を送りたいと思えます。

人、生まれて学ばざれば生まれざると同じ
学びて道を知らざれば学ばざると同じ
知って行うこと能わざれば知らざると同じ

(貝原益軒「慎思録」より)

看護学科教職員一同、皆さんの挑戦を見守り、時として支援の手をさしのべる準備もできております。安心してスタートして下さい。





新入生を迎えて

医学科第6学年 佐藤 雅



「新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！皆さんの眼前には明るい未来が広がっています！」…というようなことは他の人が書いていると思うので、違うことを書こうと思います。ご存知と思いますが現在、医療を取り巻く事情は変わってきており、それに伴い医学生も変化を求められています。それが何かは皆さんご自身で考えてみてください。ここでは私が必要だと思うことを提示させていただきます。

一つ『常に謙虚であれ』。皆さんは「最難関といわれる医学部に合格した自分はその辺のやつらとはデキが違う」さらには「自分は選ばれた人間だ」などと考えていませんか？でも考えてみてください。日本には医学部が50以上あり、毎年5千人超が医学生となります。医学部は6年間なので医学生は約3万人、卒業され医師として活躍されている(あるいは引退された)諸先輩はその大学の歴史だけ存在し、100万人は下らないでしょう。さらに世界に眼を向ければその数は数十倍、数百倍となります。皆さん

はそんな大集団の入り口に立ったにすぎません。そこから抜きんでたいのなら相応の努力が必要です。

一つ『常識を学ぶべし』。かの迷総理が「医師、医学生には常識が欠落している」という主旨の発言をされたことは記憶に新しいでしょう。これには賛否両論あるとは思いますが、ひとつ言えるのは一国の首相ですらそういう認識ですから、いわんや一般の方々をや、ということです。特に「自分は人と違うことがしたい」と考えている方こそ今のうちに常識を学んでください。なぜなら常識を知らずして自分の言動が常識と違うかどうかわからないはずだからです。自分では常識と違うことをしているつもりが、実はその世界では常識だったとしたらこんな滑稽なことはありません。常識を知った上での言動かどうか。同じ言動が「斬新なアイディア」と映るか「単なる非常識」と映るかの差はここにあると思います。

そのために多くのことを経験してください。勉強はやって当然、できて当たり前です。だってそういう人の集まりですから。であればその人の真価は勉強以外に何をしてきたかで決まるのではないのでしょうか。私自身、大学祭の実行委員長を務めさせていただいたことはよい経験になっています。部活でもバイトでも恋愛でも、機会があれば(常識の範囲内で)臆せず挑戦して豊かな人間性を築いてほしいと思います。

新入生を迎えて

看護学科4学年 福西 彩加



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生となって、生活環境が大きく変わった方が多いと思いますが、講義や部活動も始まり、大学生活にも慣れてきた頃でしょうか。

日々の生活を振り返ってみると、時間の流れがゆっくりで1日が長く感じる日もありましたが、1日講義を受け、その後、部活動という生活も多く、あっという間に1日が終わるといふ日も多かったように感じます。改めて今までを振り返ると、日々の生活では楽しいことが多く、気がつけば4年生と、最後の1年を迎えていたため、3年間はとて早く時間が過ぎ、短かったなと感じています。そこで新入生のみなさんに、私が大学生活の中で感じたことを伝えたいと思います。

大学生活はあっという間に過ぎてしまいます。なので、勉強や部活、バイトや趣味活動など、自分がやりたいと思ったことや興味を持ったことにはどん

どん挑戦してみてください。部活やバイトでは幅広い年齢層の方や、様々な立場の方と関わることができ、自分とは違った考え方・見方など、今までにない刺激を受けることで、自分自身も成長できると思います。また、その活動の中で感じたこと、得たことなどは今後の生活の中で”気付かないうちに役に立っている”ということがあるかもしれないので大切にしてください。「大学での講義は専門的なことが多いから、他のことはできない」と思っている方も、少し余裕ができたならいいので、ぜひ何か始めてみてください。新たな発見など、これまでの生活が+αで楽しくなるのではないかと思います。

大学生活は自由な時間も多く、積極的に自分で行動を起こせば様々なことに挑戦できる環境にあります。この「大学生」というチャンスを活かして有意義な大学生活を送ってください。そして、限られた時間の中で今できること・今しかできないことを大切にしてみてください。今まで積み上げてきたものは自分の財産となり、絶対に役に立ちます。これからの生活の中で、辛いと感じることもあるかと思いますが、そんな時に助けてくれるのは友達や周りの人達だと思います。感謝の気持ちを忘れずに、人とのつながりを大切にしてください。

自分なりの充実した大学生活を楽しんでください
ね♪

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 石堂敬太



入学してから早くも1カ月が過ぎ去ってしまいました。この1カ月は今まで生きてきた人生の中でも最も短く感じた1カ月であったと思います。小学校からの夢であった医師になるという目標に一段と近づくことができた喜びとともに、4月からの新生活の準備に追われながらも受験勉強時には味わうことができなかつた全く種類の異なる、ある意味楽しみを伴った忙しさを感じていた3月。合格発表から4月の入学式までの1ヶ月間はあっという間でした。

しかしながら、入学してからの1カ月はそんな3月からの1カ月とは比べ物にならないぐらいのスピードで進んでいきました。入学式当日の夜からは

早速、水泳部の練習に参加させていただき、新入生が僕1人であったにも関わらず歓迎会まで開いていただきました。右も左もわからない僕に大学生活について様々なことを教えていただいた先輩方には大変感謝しています。その後、授業が始まり、新歓合宿での先輩方・同級生との交流、いろいろな部活の新歓、水泳部の部活など4月は休む暇もなく、ただただ楽しいばかりの1ヶ月間を過ごしてきました。

本格的に授業が始まり、部活も夏の大会に向けて動き始め、6月には学校祭とこれからも忙しい毎日が続いていくことは間違いありません。しかし、楽しいことばかりが大学生活ではないということもしっかりとここで再確認しておかなくてはならないと思います。楽しいことを一生懸命頑張るのは当たり前ですが、入学前の勉強に対する姿勢を忘れず、切り替えを大切に、すべてのことにおいて全力で取り組んで充実した大学生活を送り、最高の6年間にしていきたいと思っています。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 島袋朋乃



入学してから早一ヶ月が過ぎました。四月一日に旭川へ来てから、一人暮らしの準備やら大学へ通う準備やらをしているうちにあっという間に入学式を迎えてしまいました。知り合いもない、まったく新しい環境での新生活に対する不安は少なからずありましたが、今は友達にも恵まれて何とか無事に生活しています。

入学式直後の土日には新歓合宿があり、そこで先輩たちと仲良くなることができました。友達とも多くのことを話し、とても楽しい一泊二日の日程を過ごすことができ良かったと思います。

大学に入る前は、遊ぶ金欲しさにアルバイトをたくさんしようと考えていて、「ゆるーいサークルにでも適当に入ろうか」と思っていたのですが、いつの間にか旭川医大でも活発な方の部活である準硬式野球部にマネージャーとして入部していました。そんなわけで毎日、慌ただしいけど充実した生活を送

っています。

また、大学の授業は高校や中学、そして予備校などで聞いてきたものとはかなり違うものでした。留年することなくストレートで卒業するためには気を引き締めて、ちゃんと勉強していかなければいけないなと思いました。

つい先日には生物学の実習でチャイニーズハムスターの解剖が実施されました。一年生のうちから動物の解剖があるというのはシラバスをもらってから知ったことなので、とても緊張しました。動物の命を頂いて自分が学ぶ、という経験が私にはあまりなく、実習のはじめは辛かったです。ただこの実習がきっかけで、人間だけでなく実験動物に対する生命倫理も考えるようになりました。また同時に、自分がついに医学部に入ったのだという実感が込み上げてくる出来事でもありました。

私は将来、医師不足に悩まされる土地で医療従事者として働きたいと思っています。旭川医科大学では、入学式でも説明のあったように「最先端の地域医療」に取り組んでおり、そういった学校で学び医師になれるということをととても嬉しく思います。自分自身を向上させるチャンスを多くくれるであろうこの大学で、それを見逃すことなく、有意義な、残り少ない学生生活を送っていきたくと思っています。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 数井 翔



入学してから早くも1ヵ月が過ぎました。後期で合格し、ろくに一人暮らしの準備もできないまま入学式を迎え、新歓合宿や部活の新歓、そして講義などで大学の新鮮な雰囲気を感じたこの1ヵ月は本当にあっという間でした。講義

は徐々に本格化し、早期体験実習も予定されているので、医学部に入学した実感が今になって湧いてきています。一方で部活の練習にも慣れ、親しみやすく頼もしい先輩方とともに充実した生活を送っています。

大学に入学して高校との大きな違いに驚かされました。高校と大学は講義のスタイルだけでなく、学習に対する姿勢そのものが異なっています。大学ではいわゆる「受け身型」の学習は通用せず、自分から積極的に進んで学ぶ姿勢が高校以上に求められています。将来医師となる上でこのような姿勢は当然

必要となるので、いまは不安もありますが、6年間で生涯学習の習慣がつくように努力していきたいと思っています。

部活動は、小学校から中学校まで続けていたサッカー部に入部しました。今年は例年に比べて入部した人数が多く、練習の中で仲間から刺激を受けることも少なくありません。サッカー部は練習も一生懸命でサッカー以外にも様々なことを学ぶことができると、まだ1ヵ月しか在籍していませんが実感しました。いまは体力不足や怪我に悩んでいますが、これから十分に練習してチームに貢献していきたいです。

旭川医科大学に入学して、やっと夢である医師になれるための第一歩を踏み出したような気がします。医師になるための準備としての6年間は長いようで短いと思います。勉強することはもちろんのこと、部活動を通して人と人のコミュニケーションや何か目標に対して努力することの大切さを学びたいです。そして最終的に6年間で立派な医師になるための知識と技術、前述した生涯学習の姿勢を身につけ、社会に貢献できるようになることが僕の目標です。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 高橋 佑輔



旭川医科大学に入学してから早くも一ヵ月が過ぎました。来た頃にはたくさん積もっていた雪も、新天地での門出から来る自分の緊張もようやく解けてきた感じですが、その間にも多くの出来事があり、学ぶことも多くありました。

そうして多くを学ぶ中で、学ぶことの価値というものに再認識させられました。そのことを最初に意識したのは入学直後の学長の講演です。講演は留年者数や国家試験の合格率を挙げての厳しい叱咤も含んでいましたが、同時に医者になった時に出来ることが如何に多いかということも教えるものでした。どの分野にせよ、先端を行くためには高い知性が必要だということですが、それは同時に、きちんと学ぶことでどの分野でも活躍しようということでもあります。そうした可能性を掴むために勉学を疎かに

はすまいと決意を新たにしました。

そして同時に、旭川医科大学という場所が将来の様々な可能性に対して敏感でいられるようにバックアップしてくれているということも感じました。私たちを支え、伸ばしていこうと様々な工夫が凝らされていることに気がつきます。手話の演習ではコミュニケーションというものの難しさと有り難さが実感できました。基礎生物学の実習では早速図書館の無人開館のお世話になりました。特に印象的だったのは司法解剖の見学でしょうか。生命というものについて改めて多くのことを考えるきっかけになりました。学校全体が医学のためにあるということとその価値が、ようやく実感として理解でき始めたような気がします。

自分は今こうして医学部にいます。それはもちろん医者になるためなのですが、ただ漠然と医療に携わるというだけでなく、より良い形で、より高度な形で携われるような人間になりたいと改めて思いました。きっと厳しい道のりでしょうが、旭川医科大学での6年間の日々の中でそうした自分になれるように頑張っていきたいと思っています。

看護師という選択

看護学科第1学年 熊谷 れみ



私には中学生の頃から夢見ていた事がありました。

それは、医師になり「国境なき医師団」の一員として貧しい国で働くことです。何も現実を分かっていたいなかった中学生の私は、その道がどれほど困難なものであるの

かを全く理解していませんでした。

私が在籍していた高校は札幌市の進学校で、学業にはとても力を入れていました。にも拘わらず、私は部活と睡眠にばかり力を入れる日々をおくり、テストは常に下から××番目になる始末。しまいには担任から理系を迫放されてしまい、自分でもとっくに気づいていたものの医師への道ははっきりと断たれてしまったのです。

どうしても医療を通して苦しんでいる人を助けたかった私は、あまり深く考えずに看護という職に就

くことを選択しました。しかし、当然ながら受験が近づいてくるにつれ、「自分は本当に看護師になりたいのだろうか？医師になれない未練から、看護師を目指しているだけではないか？」という迷いが生じ、自問自答を繰り返す日々でした。

そんな中途半端だった思いを一掃し、「看護師になりたい！」という強い信念を私が持てるようになったのは、私の母のおかげです。私の祖母は重度の認知症で、母は早朝と昼は仕事、それ以外は全て家事と祖母の介護にあてていました。寝る間も惜しんで働きながら介護を行う母の姿は、まさに看護そのものであったと思います。そしてその姿こそ、私が目指していた医療の形であると感じました。

旭川医科大学に入学することができた今、私にはどうしても実現したい夢があります。それは、看護師になった後に緩和ケアの認定看護師の資格を取ることです。学生の私が考えるより何百倍も、医療の現場は厳しく辛いと思います。しかし、何故自分が看護師を目指そうと思ったのか、その気持ちを忘れずに大学生活はもちろん、臨床の場でも頑張りたいです。

旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 高橋 美穂



前期合格発表の前日、私は不安でいっぱいでした。私立大学、専門学校、国公立の後期試験さえも受験せずに前期1本で挑んだからです。前期不合格だったら即浪人という状況でした。そして合格発表の当日、インターネットでは信用出来ずに大学まで見に行き自分の受験番号を見つけたあの瞬間は今でも忘れられません。

そして今、大学に入学して1ヶ月経ちますが、もう何ヶ月もいるように感じるくらい充実した日々を送っています。友達は大学生活の方が高校生活より時間的に楽だと言いますが、私にとっては大違いです。私の通っていた高校は家の目の前に在ったため毎日8時に起きていました。しかし、今では大学までバスで1時間弱かかるので、ほぼ毎日6時起きて

す。朝が苦手な私にとって辛い以外の何者でもありませんが早く慣れるよう努力します。

大学の授業は、高校までの板書をノートに写すのではなく自らが積極的に学ぶことが大事だと感じました。まだ、看護の専門的な授業を受けていませんが興味のあることなので頑張っていけるとと思います。

部活は、男子バレーボール部にマネージャーとして入部しました。最初は違う部活に入ろうかと思っていたのですが、部の雰囲気すごく好きで練習を見学する前に入部を決めました。練習は週4日で平日は夜10時に終了するので家が遠い大変ですが、先輩達が優しく素敵な方達ばかりで毎回の部活が楽しみで仕方ありません。

最後に、将来、私は助産師になりたいので看護の学習の他に助産の学習を通じて沢山の知識や技術を学び自分の中の目標に向かって日々努力し続けたいと思います。そして、学業も部活も人一倍頑張っており、旭川医科大学に入学して本当に良かったと心から思えるような4年間にしたいです。

◎外国人留学生在籍者一覧

平成22年4月1日現在

氏名	国籍	学年	期間	所属
NKOUAWA, AGATHE	カメルーン	博士課程 第4学年	2007.4.1～ 2011.3.31	医学専攻
Ali Abd AL-Karim Talib	イラク	博士課程 第4学年	2007.4.1～ 2011.3.31	医学専攻
Ahmed Abdul Karim Talib	イラク	博士課程 第3学年	2008.4.1～ 2012.3.31	医学専攻
Kamel Mohamed Khatiri Mahamoud	エジプト	博士課程 第3学年	2008.4.1～ 2012.3.31	医学専攻
MA, YANJU (马艶菊)	中国	博士課程 第3学年	2008.4.1～ 2012.3.31	医学専攻
Al-Janabi Nabaa Basim Jabbarb	イラク	博士課程 第2学年	2009.4.1～ 2013.3.31	医学専攻
Sharifi Abdul Muhib	アフガニスタン	博士課程 第1学年	2010.4.1～ 2014.3.31	医学専攻

平成22年度 大学院入学者名簿

博士課程

(平成22年4月1日現在)

氏名	専攻	研究指導教員
安藤勝祥	医学	高後裕
稲垣泰好	医学	岩崎寛
稲積圭一	医学	吉田貴彦
岩崎肇	医学	岩崎寛
宇津木千鶴	医学	松田光悦
大友重明	医学	岩崎寛
岡久美子	医学	清水恵子
岡崎秀人	医学	吉田貴彦
嘉島伸	医学	高後裕
鹿原真樹	医学	長谷部直幸
神谷隆行	医学	石子智士
神田浩嗣	医学	岩崎寛
菊地千歌	医学	岩崎寛
熊井琢美	医学	原渕保明
飛澤慎一	医学	飯塚一
長谷部拓夢	医学	高後裕
松木孝樹	医学	長谷部直幸
松本直也	医学	梶野浩樹
山本昌代	医学	高後裕
渡邊成樹	医学	柿崎秀宏
Sharifi Abdul Muhib	医学	長谷部直幸

修士課程

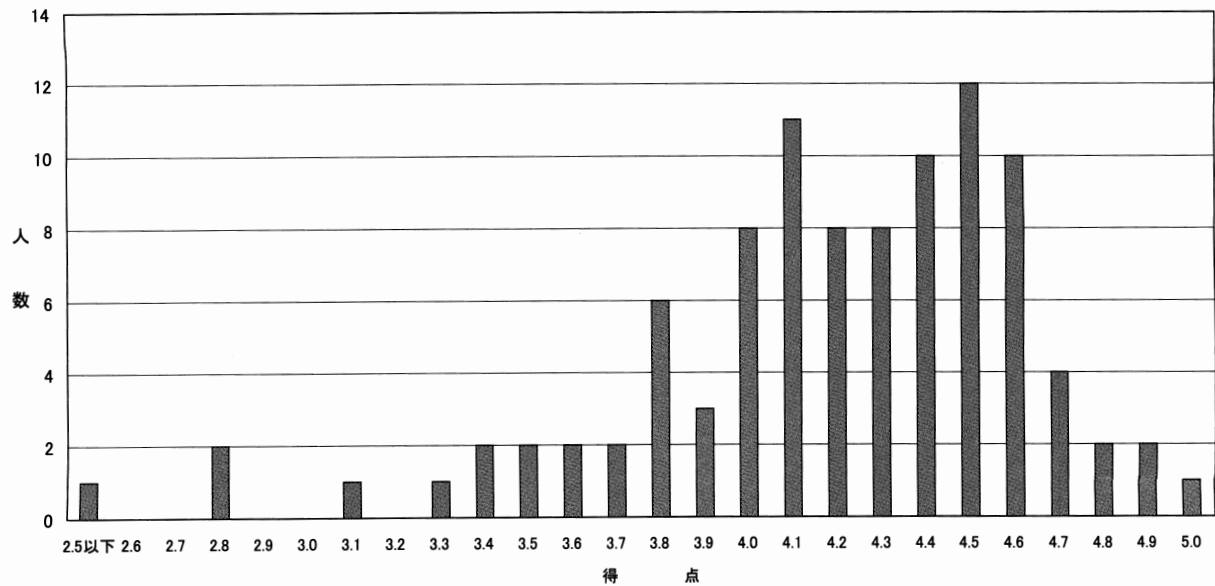
(平成22年4月1日現在)

氏名	専攻	研究指導教員
石川千恵	看護学	作宮洋子
越膳杏子	看護学	稲葉佳江
鈴木悠希江	看護学	北村久美子
芹田典子	看護学	稲葉佳江
福士まゆみ	看護学	作宮洋子
増田香織	看護学	北村久美子
萬徳滋美	看護学	黒田緑
水野芳子	看護学	望月吉勝
横井由紀子	看護学	加藤千津子
和田浩幸	看護学	作宮洋子
和田裕子	看護学	稲葉佳江
渡邊美奈子	看護学	黒田緑
五十嵐由佳	看護学	濱田珠美

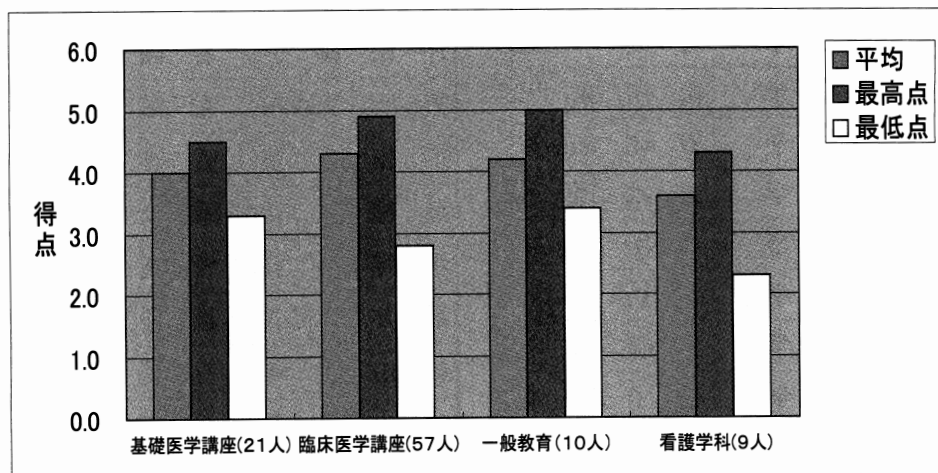
平成21年度後期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得																	点									
	2.5以下	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0	
	1	0	0	2	0	0	1	0	1	2	2	2	2	6	3	8	11	8	8	10	12	10	4	2	2	1	

(実施人数98名 平均4.2)



部局別教員の平均点と最高・最低点



講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

1

非常勤講師 竹中 健

科目名：社会福祉論（看護学科1～3学年後期／選択）

日時：平成21年12月25日（金）3講目

履修者数：7 配付数：6 回収数：6 回収率：100.0%

*評価結果（平均） 5

*評価に対するコメント

今回社会福祉論を受講されました看護学科の学生さんは、みなさんが非常に向学心をお持ちでした。御一人おひとり、きわめて熱心に個々のテーマについて思考をめぐらせ、積極的に議論をおこない、課題にも取り組んでくださいました。たいへんに優秀な旭川医科大学の学生のみなさまと講義を通じて交流を持たせていただけました。私にとりまして研究を続けていくうえでとても良い刺激となりました。ありがとうございました。

受講された皆さんが、授業にたいして多少なりとも満足してくださった部分があるとすれば、それは講義形式による部分が大きかったのではないかと思います。少人数であったためにゼミ形式に準じたかたちで授業を進めることができ、御一人おひとりと十分に向かい合える時間が持てたことが、結果的に満足度を押し上げたと思像します。

かの女たちにとって、日び知識の暗記とそのテストの繰り返しの追われている毎学期のなかで、じっくりと特定のテーマについて思考をめぐらし、平易な自分自身の言葉によって問いを立て、議論をし、わからないことを調べ、自分自身で答えを見つけるというプロセスは、もしかしたら新鮮で楽しいものを感じられたのかもしれない。ゼミ形式の講義形態が、将来もっと拡充することがもしあれば、いろいろな科目において学生さんたちがより積極的に授業に参加できるのかな、などと思ったりもします。

2

小児科学講座 古谷野 伸

科目名：臓器別・系別講義Ⅲ（医学科第3学年後期／必修）

日時：平成21年10月15日（木）3講目

履修者数：101 配付数：72 回収数：34 回収率：47.2%

*評価結果（平均） 4.94

*評価に対するコメント

このたび学生評価で高得点をいただき、大変光栄に思っております。

私が講義を行うに当たって気をつけているポイントは「ライブ感」です。基本的な医学的知識は教科書を読めば記載されており自習が可能です。せっかく教官が講義を行うのですから、自分が体験した生々しい臨床例や、教科書には記載されていない最新の情報を盛り込んで、講義に出ている学生が得をするようにしています。学生を寝かせないためにギャグを織り交ぜ、笑いをとる努力もするのですが、予定のお笑いポイントは外れることが多く、予期せぬところでうけるところが、またこちらとしても「ライブ」な感じですが。

このような点を心がけて講義に臨んでいるのですが、実は私一人のがんばりで講義が盛り上がるかということ、そうではありません。学生さんの反応は毎年違い、盛り上がる年もあれば、しらっと終わってしまう年もあります。これからも学生さんと共に盛り上がる講義を目指したいと思っております。

3

薬剤部 田崎 嘉一

科目名：選択必修コース「臨床薬理学コース」

（医学科第3・4学年後期／選択必修）

日時：平成22年1月8日（金）3講目

履修者数：9 配付数：9 回収数：7 回収率：77.8%

*評価結果（平均） 4.86

*評価に対するコメント

今回、「臨床薬理学コース」で高い評価をいただき、大変光栄なことと思います。コースの最初の授業での評価でしたので、学生さんにとっては、なかなか評価しづらい点はあったと思います。たまたま、少人数のクラスであったので、教える側としては、1人1人の学生さんの反応を見ながら授業を進められたことと、実際の臨床試験のプロトコールなども全員に見てもらい、イメージが付きやすかったのではないかと考えています。普段は、学生さんと話す機会も少なく、また、100人近くの学生さんの前で授業することが多いので、なかなか、1人1人の反応を感じ取りながら授業を進めるというのが難しいと感じていますが、今後も、工夫を重ねて、理解しやすい授業を心がけていきたいと思っております。

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
科目構成	問5 科目全体の履修目的は、履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問6 履修主題間および教員間で、内容の過度な重複は避けられていましたか。 問7 各履修主題に割り当てられた時間のバランスは適切でしたか。 問8 各担当教員は履修主題に沿って授業を行いましたか。
科目内容	問9 各履修主題の難易度は適切でしたか。 問10 科目全体の内容は理解しやすいものでしたか。 問11 科目全体の履修の目的は最終的に達成されましたか。 問12 科目全体の内容は今後の学習意欲を増すものでしたか。 問13 試験や提出物（レポートなど）の量と内容は適切でしたか。
総合評価	問14 この科目は全体として満足できるものでしたか。 ⑤ 強くそう思う（非常に良い） ④ やや思う（良い） ③ どちらとも言えない（普通） ② あまりそう思わない（あまり良くない） ① 全くそう思わない（良くない）

科目名：医用物理学（医学科第1学年通年／必修）
履修者数：107 配付数：106 回収数：84 回収率：79.2%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.1	3.7	2.7	3.8	3.7	3.7	4.0	3.5	3.2	3.6	3.1	3.5	3.5

*評価に対するコメント

医用物理学コーディネーター **本間 龍也**

この科目は物理学を主体に、関連した医療技術の基本を学ぶため、一般教育、基礎医学、臨床医学の教員が講義する統合科目の一つです。2009カリキュラムのスタートに伴い、今年度から講義名も医用物理学、半期から通年開講へ変更となりました。学生評価の平均は別表に示す通りですが、まず、総合評価が昨年度より0.3上昇し、5の評価を頂きました。また、各項目別でも昨年度に比べ、平均0.3高い評価を頂きました。昨年度の内容を見直したことで、半期開講から通年開講に変わりより丁寧な講義が行えるようになったこと等が授業改善につながったものと推測されます。ただ残念なことは、問1の自己学習に関する評価が依然低いことです。今後も物理学初学者から既履修者までの学生が共に、一定の満足感を得られるよう講義改善に努めるつもりです。担当していただいた先生には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

科目名：基礎生物学（医学科第1学年通年／必修）
履修者数：106 配付数：101 回収数：95 回収率：94.1%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.2	4.0	3.0	4.2	4.3	4.2	4.4	3.9	4.1	4.2	4.2	3.9	4.3

*評価に対するコメント

基礎生物学コーディネーター **立野 裕幸**

総合評価は4.3であり、昨年度よりも0.3ポイント上昇した。この理由として、新カリキュラムにより、開講時期が前期から通年に変更されたことで時間的にゆとりを持って学習できるようになったこと、また、教科書を指定したことで学ぶべき点が明確になったことなどが挙げられる。一方で、問1（予習）と問4（復習）のポイント（3.0）に見られるように全体的に自己学習が不足していることも事実で、これが、授業内容を難しく感じる1つの要因になっているようである（問9：3.9）。昨年度は、期末試験1回のみであったため、「試験範囲が広すぎて大変」という声があった。今年度は、前期期末、後期中間、後期期末の3回に分けて試験を実施したが、これを逆に負担に感じた学生もいたようである（問13：3.9）。教員側としては、少なくとも教科書を読み解くレベルまで基礎学力を身につけてほしいと願っており、補足資料の工夫はもちろん、自己学習を促すような環境づくりも心がけていきたいと考えている。

科目名：基礎生化学（医学科第1学年通年／必修）
履修者数：103 配付数：103 回収数：96 回収率：93.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.3	3.7	3.0	4.0	4.2	4.0	4.1	3.6	3.4	3.8	3.7	3.7	3.8

***評価に対するコメント**

基礎生化学コーディネーター **中村 正雄**

今年度の改善点は、科目全体を担当する教員で3つに分け、それぞれの分野で試験をおこなったことである。3つの分野について昨年の試験の成績と比べると、いずれも平均点が上昇した。これは異なった分野の理解及び試験対策が学生諸君に容易になった結果と考えられる。これが、昨年に比べ全般的に授業評価を上昇させた原因のひとつと思える。基礎生化学は有機化学、無機化学、生体熱力学及びタンパク質化学から構成され、生命科学の物質的基礎を学ぶ事に力点が置かれている。コメントに、学んでいるトピック間のつながりが理解しにくいとの指摘がある。特に生体熱力学といった基礎概念の理解には、テキストの通読、熟読といった十分な時間をかけた学習が必要である。これを皆さんに切に希望している。

科目名：遺伝学（医学科第1学年後期／必修）
履修者数：105 配付数：105 回収数：95 回収率：90.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.4	3.9	3.0	4.0	3.8	4.1	4.2	3.9	3.9	4.0	4.1	4.0	4.2

***評価に対するコメント**

遺伝学コーディネーター **林 要喜知**

オムニバス方式の本科目では担当教員数が多すぎるため講義に重複があったり、内容も多岐にわたり統一性がない等が、これまで問題点として指摘されていた。本年からのカリキュラムでは、これらを大幅に改善した。その結果、問14については0.3ポイントほど上昇した。講義企画の改善に一応の評価がなされたものと考えられる。しかし、具体的なコメントでは、「臨床的な内容で意欲的になれた」、「わかりやすい講義であった」、「難しくてわかりにくいところがあった」、「もっと深い内容の講義を期待していた」などのコメントがあった。今後、これらの点にも対応するため、担当教員間で引き続き協議を重ねて改善策を見いだしたいと考えている。

科目名：基礎医学I（医学科第2学年後期／必修）
履修者数：94 配付数：91 回収数：87 回収率：95.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	3.6	3.9	3.0	3.8	3.5	3.1	3.7	2.9	3.1	3.3	3.7	2.6	3.4

***評価に対するコメント**

基礎医学Iコーディネーター **立野 正敏**

平均が3.0に達しなかった項目として履修主題の難易度（問9）、試験の量と内容の適切さ（問13）があげられる。少ない授業時間の中で多くの内容を学習するため、本年から事前に到達目標を明示したので、それに従って学習すればポイントが絞られ、それほど困難ではないと考える。神経病理、神経生理については時間配分の見直しが必要であるが、このカリキュラムの中（講義コマ数）での変更は難しいが取り組んでいきたい。コメントとして「試験の日程」「試験内容」「多岐選択問題」に対する不満が多くみられた。完全解答にしたため、6割近い追試者が出たことへの不満も多い。正確な知識、幅広い理解力がないと、将来、臨床家としてやっていけるのかどうか、特に自分が将来ひとの生命を預かる医師になるという自覚を持っていただきたい。過去問だけやって試験に通ることが目的ではないと考える。

科目名：基礎医学Ⅱ（医学科第2学年後期／必修）
履修者数：95 配付数：54 回収数：30 回収率：55.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.9	3.9	3.9	2.5	3.7	3.9	3.9	4.3	3.4	3.5	3.9	3.7	3.2	3.8

***評価に対するコメント**

基礎医学Ⅱコーディネーター **若宮伸隆**

薬理学、微生物学、寄生虫学で構成される統合科目としては最後になる今回の本科目の評価は、過去6回の評価とほぼ同じでした。コアカリキュラムに準拠して「個体の反応」として統合された領域でありましたが、平成22年度からは元の形に戻って、それぞれ独立した「薬理学」、「微生物学」、「寄生虫学」として展開されます。その意味で、この7年間は1つの「実験期間」であった訳ですが、この「実験」が終わってみて感じた事は、「どのような形態に編成してみても、知識の習得のための楽な道は（少なくともこの領域に関しては）無い」ということでした。膨大な知見が蓄積され、さらにその蓄積量が増大しつつある領域において、基礎となる事柄から最新の情報までを過不足なく伝達し吸収するためには、教える側にとっても、学生諸君にとっても、双方かなりの労力を要するわけですから、「楽な道は無い」というのは当然の結論であると思われます。

基礎医学Ⅱの3領域の学習内容は、医学教育後半の臨床講義を受講する上での基盤として必須のものです。新しいカリキュラムにおいても、学生諸君の能動的な受講を期待しています。

科目名：基礎医学特論（医学科第2学年後期／必修）
履修者数：93 配付数：70 回収数：40 回収率：57.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.6	4.5	3.2	2.0	3.4	4.1	3.9	4.2	3.7	3.3	3.6	3.6	4.3	3.5

***評価に対するコメント**

基礎医学特論コーディネーター **鈴木裕**

本科目は各基礎医学講座・分野の研究領域について最先端の知見や成果を紹介し、基礎医学とその研究について、学生の皆さんの興味を引き出す目的で企画されている。授業評価の点数と自由記載のコメントを見ると、その評価は二つに分かれていると判断できる。すなわち、対象講義内容にきわめて大きな関心と興味を抱いてくださった学生の皆さんと、そうでない方たち（あるいは本科目の開講意義・時期について疑問を持った方たち）である。教員であると同時に研究者として日々研究に取り組むことは、大学としての使命を果たす上で必須のことであり、学生の皆さんにその活動内容を紹介することはきわめて有意義であると考えている。2010年度からは本科目の講義時間は半数に縮減されるが、学生の皆さんには、本科目の重要性を認識していただけるよう、そして知的好奇心を刺激するよう、さらに講義内容を改善したいと考える。

科目名：社会医学基礎Ⅳ（医学科第2学年後期／必修）
履修者数：93 配付数：89 回収数：85 回収率：95.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.3	3.2	2.2	3.5	4.1	3.8	3.9	3.7	3.6	3.6	3.4	3.7	3.6

***評価に対するコメント**

社会医学基礎Ⅳコーディネーター **中村正雄**

講義は長谷川先生と杉岡の二名で担当した。内容は、長谷川先生が「生命倫理」、杉岡が「生きる意味（スピリチュアリティ）」であった、これは、その他の多くの講義にある生物医学の領域とは分野を異にするため、（1）いかに学生に興味を持ってもらい、（2）将来の臨床上也重要となるこれらのテーマを学んでもらうのかが、教員に課せられた大きな課題であり、腕の見せどころであろうと思う。さて、最終的な評価が3.6あり、全体としてみれば、我々の使命は十分果たされていなかったようにも思う（ただし、教員毎の評価は別にある）。ところで、単科大学の場合には1、2年の時に履修可能な科目が非常に限られる。この限界を補うためにも、教員は総合大学にない質の高い講義を提供するように常に努力しなければならないし、学生も一緒に良い講義を作り上げていってほしい。個人的には、この講義を履修してくれた学生は熱心に聴講してくれたと感謝しているし、特に幾人かの学生は非常に深い考察をしてくれた（文責 杉岡）

科目名：臨床医学概論Ⅱ（医学科第3学年後期／必修）
履修者数：100 配付数：89 回収数：49 回収率：55.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	4.1	3.6	2.7	3.9	3.9	4.0	4.1	4.2	4.2	4.0	3.7	4.2	4.1

***評価に対するコメント**

臨床医学概論Ⅱコーディネーター **吉田 貴彦**

新々カリでは旧衛生、公衆衛生、法医領域の講義を再編し、第4学年の「社会医学」と第3学年で倫理的な側面が比較的多くかつ臨床医学の知識が無くとも理解しやすい内容を集めた「臨床医学概論Ⅰ・Ⅱ」として展開されている。社会医学の広い範囲をオムニバス方式で展開するので、科目全体として違和感が持たれやすく、科目名が不適切との指摘は当初よりある。総合評価4.1、科目全体の履修目的（評価4.0）は今までで良い評価となった。前提となる課題が多い中ではあるが、各教員の改善の取組みが功を奏したと思われる。しかし、学習意欲を高める授業かどうか低い評価であり、多様な内容のオムニバス方式の科目の難しさを感じた。カリキュラム2009では社会医学系の科目は第3、4学年で再編成して展開されるので大幅な改変を行いたい。

科目名：臓器別・系別講義Ⅱ（医学科第3学年後期／必修）
履修者数：100 配付数：96 回収数：58 回収率：60.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.0	3.8	3.1	3.7	3.6	3.6	3.8	3.6	3.6	3.6	3.9	3.6	3.8

***評価に対するコメント**

臓器別・系別講義Ⅱコーディネーター **羽田 勝計**

臓器別・系別講義Ⅱは3年生後期に内分泌代謝系疾患と腎泌尿器系疾患を中心に第一内科・第二内科・泌尿器科・小児科・耳鼻咽喉科による講義で構成されている。全コマ数は60コマで、他の臓器別・系別講義と比較して相当数のコマ数であり、科目構成評価および科目内容評価は概ね3.6～3.9と各分野別にバランスのとれた構成となりつつあると考えられ、学生からも一定の評価が得られていると思われる。その一方で、学生自身の評価として、授業の予習や復習が十分に実行されていないことが明確となり、今後の授業を通して予習復習の重要性をアピールしていく必要があると思われる。また、少数意見ながら講義のスケジュールが短期に集中していることや一つの臓器別・系別講義全体のコマ数が多いこと、あるいは試験日程に関する不満もあり、現在すすめられている臓器別・系別講義の再構成化も含めた授業全体の再構築化の際に十分考慮されるべき課題として残された。

科目名：臓器別・系別講義Ⅲ（医学科第3学年後期／必修）
履修者数：101 配付数：90 回収数：52 回収率：57.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.1	3.9	3.2	3.9	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.7	3.9	3.8	3.9

***評価に対するコメント**

臓器別・系別講義Ⅲコーディネーター **高後 裕**

臓器別・系別講義Ⅲは、膠原病、感染症、血液病学を対象とした講義である。学生の総合評価は3.9とはほぼ満足してもらえたと考えている。各科・各分野でも重複項目の整理を進めてきた結果、例年みられた授業内容に対してコマ数が足りないとの学生からの自由意見が本年度は見られず、科目構成・内容に関する比較的高い評価につながったと考えられる。また国家試験の傾向を鑑みて試験問題に完全回答を取り入れるなど実地に即した対策も進めている。より正確かつ幅広い知識を求められるようになってきており、従来型の一方的な知識の押し付けに頼らず、授業の予習・復習も行いその都度疑問点を明らかにし、さらに4学年のチュートリアルや、5学年以降のクリニカルクラークシップも通じて自ら積極的に学習することで、不十分な知識を補い、問題点を自ら解決していく姿勢・習慣を身につけてもらいたい。

科目名：臓器別・系別講義Ⅴ（医学科第3学年後期／必修）
履修者数：100 配付数：97 回収数：51 回収率：52.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	4.0	3.8	3.5	4.0	3.9	3.9	3.8	3.9	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9

***評価に対するコメント**

臓器別・系別講義Ⅴコーディネーター **千葉 茂**

臓器別・系別講義Ⅴは、小児科学、脳神経外科学、放射線科学、および精神医学で構成される精神神経系についての講義である。毎年、4.0前後の学生評価を得ており、満足すべき結果とみなすことができる。今回の学生側から寄せられた意見は3件で、2件は興味を持って講義を聞けたというもの、1件は試験問題が過去の問題に類似しているというものであった。Multiple Choiceの出題形式をとっているため、学生が過去の問題を集めた努力は並々ならぬものがある。ただ、講義を行う側も出題がOne Patternにならないように工夫が必要である。この点が、今後の課題と言えよう。

科目名：臓器別・系別講義Ⅵ（医学科第3学年後期／必修）
履修者数：100 配付数：93 回収数：66 回収率：71.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.0	3.7	3.0	4.2	4.1	4.0	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2

***評価に対するコメント**

臓器別・系別講義Ⅵコーディネーター **松田 光悦**

臓器別・系別講義Ⅵは、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科口腔外科の4科が合計105コマを担当した。この4科が担当するのは感覚器系という人間の生活の質にかかわる重要な分野を集中的に学ぶためである。しかし、臓器別という観点からは広範囲で各科目の関連性もつけ難く、必然的にコマ数も多くなり、学生からは「一部の内容を他の臓器別・系別講義に回してはどうか」や「コマ数を少なくしてほしい」という意見も聞かれた。学習が容易でない分野こそ、学生の学習意欲を高める工夫が必要である。この点に関し、各科がそれぞれ工夫していることが、問5から問12の項目で回収数の半数以上が4か5点を付けていることから明らかである。さらに科目全体としても学生がほぼ満足できたということは、各講座、各担当教官がシステムチェックに教育内容を構築し、熱意のある教育を施していることの証拠であり、コーディネーターとして心から感謝いたします。

科目名：選択必修コースⅠ・Ⅳ「臨床薬理学コース」（医学科第3・4学年後期／選択必修）
履修者数：9 配付数：9 回収数：9 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.3	4.3	3.0	4.2	4.8	4.7	4.9	4.6	4.6	4.6	4.6	4.7	4.8

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅠ・Ⅳ「臨床薬理学コース」コーディネーター **牛首 文隆**

臨床薬理学は、第2学年で学習した基礎薬理学の原理を臨床に応用する際に必須となる分野である。本コースでは、その理解のために、薬物の投与方法から薬物療法の問題点に至るまで、臨床の各分野で御活躍の先生方にその専門分野の講義を行って頂いた。試験結果は、3、4年生とも7割を超える正解率で、学生諸君の努力と講義の質の高さが窺われた。また、3年生には履修前の分野も含まれ、内容の理解が大変であったかもしれない。しかし、4年次でその分野を履修した際、必ずやその理解の一助になるであろう。今後も各科の先生方に御協力頂き、さらに臨床薬理学の理解に寄与する講義にしていきたいと考えている。

科目名：選択必修コースⅠ・Ⅳ「ニューロサイエンスコース」

(医学科第3・4学年後期／選択必修)

履修者数：63 配付数：60 回収数：50 回収率：83.3%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.3	3.8	3.1	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.7	3.8	3.7	3.8	3.9

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅠ・Ⅳ「ニューロサイエンスコース」コーディネーター **吉田成孝**

各項目ともほぼ4.0前後の評価という結果であった。昨年度の評価と比較すると、問7と問12がやや下がっているものの、ほぼ同様の評価といえると思う。昨年度のから始めた試験により、学習の意欲は増していると考えている。しかし、オムニバス方式の授業のため、講義内容では、先端の基礎研究から臨床の最前線まで様々なものが含まれる。これが、当コースの面白さであると考えているが、どちらかに統一して欲しいという意見もあった。また、講師により、ハンドアウト配布などの対応が異なっている点も指摘を受けた。出来るだけ対応していきたい。

受講者数と評価表の回収数ともに、今年度は昨年度の2倍程度あったが、コメントを寄せてくれた数は昨年度の約半数の6件だけであったのは、やや寂しく感じた。学生諸君も積極的にかつ建設的に発言していただきたい。

科目名：選択必修コースⅠ・Ⅳ「生体構造機能蛋白・病理解析コース」

(医学科第3・4学年後期／選択必修)

履修者数：58 配付数：41 回収数：17 回収率：41.5%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.2	3.8	3.2	4.2	4.3	4.2	4.2	3.9	3.6	3.9	3.7	4.5	4.0

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅠ・Ⅳ「生体構造機能蛋白・病理解析コース」コーディネーター **伊藤喜久**

生体構造蛋白、病態解析については、本年度も応分の評価をいただきました。蛋白質を基礎から臨床応用まで総合的・横断的に学ぶことで、色々な視点から蛋白に関わる生理、病態の機序を考え、医学、医療へのアプローチの発想の転換を促すことに力点を置いています。少しでも講義の中から新たな興味が引き出され、新しいアイデアに触れ、医学研究の面白さに触れていただければそれだけでも、私どもの意図するところは十分達成されたと考えています。事実、諸君からのレポートには、個性ある学際的な内容が盛り込まれており、大きな手ごたえを感じています。これからも、それぞれの専門性の立場から最新の話題を提供し、学生諸君が自ら病態生理を考える力を得ていくよう努める所存です。

科目名：選択必修コースⅠ・Ⅳ「臨床感染症学コース」(医学科第3・4学年後期／選択必修)

履修者数：42 配付数：33 回収数：16 回収率：48.5%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.4	4.1	2.9	4.1	3.9	3.8	4.3	3.8	3.9	4.1	4.3	3.6	4.1

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅠ・Ⅳ「臨床感染症学コース」コーディネーター **若宮伸隆**

本コースの平成21年度の受講学生は、第3、4学年合わせて42名でした。授業評価は、予習・復習等に関する問1、4を除いて、例年と同じく学生諸君に好評価を戴いたと思います。自由記載欄にも、「様々な医療領域の先生方の講義を聞く事ができて楽しかった」とのコメントが寄せられていました。

このコースは、院内感染予防対策等を始めとする感染症の基礎を中心に組み立てられており、選択必修コースではありますが、医学部学生諸君にとって必須の基礎知識を構築できるように工夫しています。多くの学生諸君の受講を期待しています。

科目名：選択必修コースⅡ・Ⅴ「臨床腫瘍学コース」(医学科第3・4学年後期／選択必修)
履修者数：83 配付数：77 回収数：66 回収率：85.7%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.3	3.8	3.5	4.0	4.1	4.1	4.3	4.0	3.9	4.0	4.1	4.1	4.1

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅡ・Ⅴ「臨床腫瘍学コース」コーディネーター **西川祐司、高後 裕**

臨床腫瘍学コースは、癌に関する基礎的・臨床的話題から腫瘍病理学、疫学、臨床試験、緩和医療に至るまで幅広い領域を、基礎・臨床そして診療科の枠を超えて横断的に学習できるコースである。開講以来最多の83名の学生が選択したが、出席に関する自己評価が4.3と大変高く、総合評価も4.1と好評であった。各専門家による得意分野の講義で、学生も興味深く出席し、その内容にも満足してもらえたものと考えられる。本コースでは、講義の内容が広汎かつ専門的であることから担当講師により作成・精選された問題ならびにその解説付きの解答を、あらかじめ学生に公開し、その中から試験問題を出題する方法をとっている。試験に関する学生の評価は極めて好評であった。昨今、がん医療に関する基盤的な幅広い知識が必要とされており、今後益々内容が充実されていくものと期待している。

科目名：選択必修コースⅡ・Ⅴ「加齢と適応の医学コース」

(医学科第3・4学年後期／選択必修)

履修者数：59 配付数：38 回収数：21 回収率：55.3%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.4	3.8	3.3	4.1	4.2	4.3	4.4	4.1	4.1	4.2	4.0	4.5	4.2

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅡ・Ⅴ「加齢と適応の医学コース」コーディネーター **長谷部 直 幸**

老年医学の修得のみならず、アンチエイジング（抗老化）を考える上で、加齢に伴う生体の適応と破綻のメカニズムを理解することは不可欠であり、これを目指して展開されているのが「加齢と適応の医学コース」です。第4学年の必修科目である「加齢・老化と高齢者の医学」と重複するところもありますが、高齢者によくみられる疾患解説を主体とする同コースとは異なり、選択必修である本コースでは、より踏み込んだメカニズムの理解を目指しています。総合評価4.2は、この主旨を理解して講義を構成していただいている複数の担当科の先生方のご努力の賜物であると敬意を表します。また学生自身の自学評価以外の全項目に渡って4.0以上の評価を得たことは、選択必修コースとしての充実度を反映するものと嬉しく思います。不老長寿を夢物語とばかりは言えない医学の進歩も見据えながら、医学生とともに未来を志向する講義が展開できればと願っております。

科目名：選択必修コースⅡ・Ⅴ「メンタルヘルスコース」(医学科第3・4学年後期／選択必修)

履修者数：28 配付数：28 回収数：26 回収率：92.9%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.2	4.0	2.9	3.9	3.7	3.7	4.1	4.1	4.0	3.8	4.0	3.8	3.9

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅡ・Ⅴ「メンタルヘルスコース」コーディネーター **千葉 茂**

「21世紀は脳とこころの時代」である。医学教育においても脳に関連する領域の講義は内容も急速に進歩している。このメンタルコースでは、精神医学のみならず、神経内科学、小児科、内科、などの臨床系医学に加えて、心理学、神経生理学などの基礎系医学も含めた講義展開を行っている。総合的評価スコア自体は昨年と同様であった。学生から「とても興味深い」という感想が複数寄せられたが、多肢選択試験において「試験が少し難しかった」という意見が寄せられた点が気になる。この点については、ポイントを絞った講義を行う工夫が求められよう。今後も時代に合わせた興味あるテーマで学生を惹きつけたい。

科目名：選択必修コースⅡ・Ⅴ「EBM・CPCコース」(医学科第3・4学年後期／選択必修)
履修者数：3 配付数：3 回収数：3 回収率：100.0%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	4.3	4.7	4.3	4.0	4.0	3.7	3.7	4.0	4.3	4.7	5.0	4.7	5.0

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅡ・Ⅴ「EBM・CPCコース」コーディネーター **奥村利勝**

選択必修コース「EBM・CPCコース」は開講し5回目を迎えた。30コマの中前半16コマをEBMコース、後半14コマをCPCコースで構成し、即臨床実習・研修で役立つ生きた知識・考え方を習得出来るよう心がけた。選択者は、3年生0名で4年生3名の合計3名と例年の参加人数より極端に少数であった。現時点ではこの不人気の理由は分かっていません。開講以来(4.3-4.7-4.-4.5昨年度)と一定した評価が得られているが、今回の総合評価はついに5.0になった。総合評価とともに、私達が最も重視する問12(今後の学習意欲を増すか)の評価も5.0と満足できるものであり内容や進め方は適切と判断している。もともと興味があって選択した諸君に、しかも少人数での濃度の濃い授業が構築できたことが好評価の原因と考える。選択必修という性格上、次年度も同様な内容でコースを構築する。

科目名：選択必修コースⅢ・Ⅵ「感覚器医学の最先端コース」

(医学科第3・4学年後期／選択必修)

履修者数：83 配付数：66 回収数：16 回収率：24.2%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.3	3.5	3.0	3.7	3.8	3.9	4.1	3.6	3.7	3.7	3.6	3.9	3.8

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅢ・Ⅵ「感覚器医学の最先端コース」コーディネーター **石子智士**

選択必修コースⅢ・Ⅳ「感覚器医学の最先端コース」では、感覚器医学の基礎から臨床そして最先端の全てを、眼科学、生理学、解剖学、耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学、麻酔蘇生科学の13名の講師がそれぞれの立場から講義された。学生評価の回収率が24.2%と低く必ずしも全体の意見を反映してはいないと思われるが、例年とほぼ同等の評価となり、改善が見られないという結果であった。とりわけ難易度の適切さに関する問いは、ここ3年と比べても最も低い評価であり、今後の学習意欲を増すものかどうかの問いとならび3.6ポイントにとどまっている。シラバスに書かれているにもかかわらず、コースの目的が最先端の話題提供なのか復習なのか目的が分からないといった指摘もあり、授業からはそれが読み取れなかったようである。臓器別・系統別講義との違いを明らかにし、学生にとって興味をもてる有意義な講義となるよう努力したい。

科目名：選択必修コースⅢ・Ⅵ「糖尿病・内分泌Up-Dateコース」

(医学科第3・4学年後期／選択必修)

履修者数：55 配付数：43 回収数：22 回収率：52.1%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.1	4.0	3.4	4.0	4.0	4.2	4.2	4.0	4.3	4.2	4.2	4.4	4.0

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅢ・Ⅵ「糖尿病・内分泌Up-Dateコース」コーディネーター **羽田勝計**

選択必修コースⅢ・Ⅳ「糖尿病・内分泌Up-Dateコース」は基礎分野から臨床内分泌学に関連した糖尿病・内分泌疾患・小児内分泌疾患・循環器疾患・カルシウム骨代謝異常・婦人科疾患に及ぶ広範囲な領域における最先端の知識や治療あるいは分子機構を理解することに主眼がおかれている。科目構成・科目内容および総合評価は4.0~4.4と一定の理解は得られていると考える。一方、授業の予習や復習は3.2および3.4と評価が低く、今後は予習復習への取り組み方についても改善していきたい。また、少数意見ではあるが、糖尿病や内分泌疾患に特化した科目構成を望む意見もみられ、講義の再構築化も今度の検討課題として残された。

科目名：選択必修コースⅢ・Ⅵ「臨床遺伝学コース」(医学科第3・4学年後期/選択必修)
履修者数：9 配付数：9 回収数：9 回収率：100.0%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.8	4.8	4.8	4.2	4.8	4.3	4.8	4.7	4.4	4.4	4.7	4.8	4.6	4.9

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅢ・Ⅵ「臨床遺伝学コース」コーディネーター **蒔田 芳男**

臨床遺伝学は、疾患別で講義される遺伝にかかわる情報をどのように患者さんに伝えるか?を目的に設立されております。講義部分の特論とともに、最終的に患者さんに伝える場合の問題点の討議する「ロールプレイ」や倫理問題の「ディベート」、家系図の書き方や遺伝情報の調べ方などの演習を組み合わせた2本立てのメニューで開講しております。一昨年6名、昨年17名、今年9名と少人数ですが、受講後の学生評価(総合評価)は、今年4.9と高い評価を得ており講師陣も授業内容に自信をもっております。来年度は、受講生からの要望の多い「演習部分の充実」を予定しています。選択必修の枠組みの中で、少人数ゼミナールとしての形態を活かして人類遺伝学の臨床応用分野の進歩をレビューしていきたいと考えています。

科目名：選択必修コースⅢ・Ⅵ「救急・プライマリケアコース」
(医学科第3・4学年後期/選択必修)
履修者数：35 配付数：35 回収数：19 回収率：54.3%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.9	4.6	3.9	4.4	4.6	4.5	4.6	4.3	4.3	4.3	4.6	4.4	4.6

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅢ・Ⅵ「救急・プライマリケアコース」コーディネーター **藤田 智**

評価の結果は、問1事前準備に対する項目以外は高い評価を受けることができた。今回我々が用いた授業方法は、参加型、双方向型を基本とした成人教育技法を用いた授業で、学生の皆さんが積極的に参加してくれることによって成り立つ方式であったことを考えると、学生の皆さんの積極性に感謝する必要があると思われる。

高い評価を得た一方で、定員枠に対してそれを広げるようにという要望をいただいた。しかしながら、参加型・双方向型の授業を行うことを考えると現在の人数が上限と考えられる。今後希望者が増えた場合には、定員を増やすのではなく、授業回数を増加するなどの対策が必要と考えられるが、授業全体の枠の中での話であることから、なかなか改善は容易ではないと思われる。必要があれば選抜試験を考慮することも考えて良いかもしれない。

科目名：臨床医学概論Ⅳ(医学科第4学年後期/必修)
履修者数：92 配付数：83 回収数：65 回収率：78.3%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.4	4.2	4.0	3.5	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2

***評価に対するコメント**

臨床医学概論Ⅳコーディネーター **郷 一 知**

救急医学概論Ⅳは、救命のための最大限の医療努力、人の死、そして臓器提供と臓器移植に関する講義を通じて、人の生と死を考える機会を提供したいという願いで構成されています。

生の救急医療に関することや、脳死や移植の話題など、通常の教科書には載っていないことが多く、予習は困難な講義群であったと思います。それに関わらず、比較的よい評価をいただき、また、コメントにも救急医療に興味を持っていただいた積極的なものが見られ、意を強くしました。

臓器別・系別Ⅷとの融合につき言及されたコメントもありました。臓器別・系別Ⅷでは系統的な知識を、救急医学概論Ⅳでは考える場を、と思っておりますが、ご指摘いただいたとおり、内容に重なるところがあったり、まとまった時期に講義をした方がよいものもあると思います。今後の課題にさせていただきたいと思っております。

科目名：臨床薬剤・薬理・治療学（医学科第4学年通年／必修）

履修者数：92 配付数：80 回収数：72 回収率：90.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	4.1	4.0	3.3	4.0	4.0	4.0	4.1	3.9	3.9	3.9	3.9	3.7	4.0

***評価に対するコメント**

臨床薬剤・薬理・治療学コーディネーター **松原和夫**

講義全般に関して、本年も全般的に好評であったと思います。履修の目的、講義のバランスに関しては、本コース開始当初から十分に配慮したものであり、学生評価も低くないことから、適当であったと思われます。問9から12において、講義の難易度、理解しやすさ、履修目的の達成度において評価が少し低くなっていますが、来年度は講義の理解しやすさについてさらに配慮し、学生の習得度が高まるよう努めたいと思う。

試験に関しては、毎年、問題が易しすぎるという意見に配慮して、例年より難易度を高めた。問13において他の設問より低い評価になっているのはそのためと思います。しかし、実際の試験での平均点が極端に低くなることはなく、適切な評価を行えたと思います。

科目名：臨床検査学（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：92 配付数：80 回収数：64 回収率：80.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.1	3.7	3.4	3.9	3.9	3.8	3.9	3.8	3.7	3.8	3.7	3.6	3.7

***評価に対するコメント**

臨床検査学コーディネーター **伊藤喜久**

授業に関しては将来にわたり臨床医学の現場において、広い視点から検査値を分析できるよう、病態生理学的な背景を踏まえて検査値の読み解きを共に学ぶ講義に努めています。

今回も応分の評価をいただきました。具体例を通して検査値のもつ不確実性と、ピットフォールを理解していただいたものと思っています。

臨床検査はカバーする領域が極めて広く、専門用語、独特な視点などから、少しとっつきにくい点もあるかも知れません。重要なポイントを絞り込み、より理解がしやすいように示します。

学生さんが将来にわたって検査、研究マインドを持って将来にわたり、問題に取り組み解決できる力が持てるよう、引き続き講義、実習を通じて努める所存です。

科目名：加齢・老化と高齢者の医学（医学科第4学年通年／必修）

履修者数：92 配付数：83 回収数：74 回収率：88.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.2	3.9	3.4	3.9	3.9	4.0	4.1	4.1	4.2	4.2	4.0	4.1	4.1

***評価に対するコメント**

加齢・老化と高齢者の医学コーディネーター **奥村利勝**

臓器別ではなくいわば高齢者という年齢という尺度で分けけた臨床医学横断的な分野である。少子高齢化と言われる現在、どの臓器別専門診療に関わる医師でも、高齢者診療において共有すべき医学的知識がある。各臓器別講義の内容と一部重複する部分があるかもしれないが、重複して講義される内容は、それだけ重要であることを認識して欲しい。また、臓器別講義の内容を本講義の内容で横断的に理解することは一人の患者を見る全人的医療を実践する上でも役立つことを確信する。総合評価は昨年度と同じ4.1であり、講義内容に関するnegativeなコメントはなかった。しかし評価点は未だ満足できるものではなく、より一層授業の展開を充実させることを目指す。

科目名：症候別・課題別講義（医学科第4学年通年／必修）
履修者数：92 配付数：89 回収数：54 回収率：60.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.4	4.1	4.0	3.5	4.0	3.7	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0

***評価に対するコメント**

症候別・課題別講義コーディネーター **笹嶋唯博**

回収率60%で、各問いに対する平均点は3.9であるが、個々の問いに対する評価の半数以上は4～5点にあることは平均点以上に評価が高いといえる。実際、講義における学生の熱心さが感じられ講義のやりがいがある。講義の質の良否は、学生に高く評価されており、評価の内容には講義が役立っていることを特記し、またチュートリアルと連動してさらに理解が深まっていることを強調する学生もあった。

科目名：形態機能学（看護学科第1学年通年／必修）
履修者数：59 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.1	3.4	2.7	3.8	4.1	3.6	3.6	3.9	3.8	3.7	3.9	3.9	4.0

***評価に対するコメント**

形態機能学コーディネーター **石川一志**

例年通り、解剖学と生理学を別々に並行して講義する方式を取った。総合評価は4.0点でまずまずの評価を頂いた。科目構成と科目内容については、3.6～4.1点と予想の範囲内であった。問1と問4は2.5および2.7点であり、予習も復習もあまり行わなかったようだ。次年度は、この点を改善するよう指導したい。評価が特別高いわけではないのに、よかった、分かりやすかったというコメントを多数頂いた。とりわけ岩元先生による生理学の講義は評価が高く、今後この講義が聴かれないことを惜しむ声が多数寄せられた。そのコメントの一例を掲載し、敬意と哀悼の意を表す。「岩元先生は、教科書を見ずに授業をしたり、私達の反応を本当に確かめたりしながら進めてくれたので良かったです。このような先生がいなくなってしまうことは本当に残念です。次の1年生のためにも、岩元先生のような授業をしてくれる先生が一人でもいたらいいと思います。」

科目名：代謝栄養学（看護学科第1・2学年後期／必修）
履修者数：119 配付数：119 回収数：117 回収率：98.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.2	3.6	2.5	3.3	3.6	3.4	3.7	3.6	3.5	3.4	3.3	3.5	3.5

***評価に対するコメント**

代謝栄養学コーディネーター **木村昭治**

代謝栄養学は基礎生化学と栄養学からなりそれらの授業配分は3：2となっている。その理由の大きなものは看護では栄養学の知識が以後の講義においてのみならず現場でも必須であるからである。生化学の素養はその他の専門基礎科目を理解するために重要であるの言うまでもないが基礎的な事項、必要最小限に留めている。残念ながら本授業科目には専任の教官がおらず生化学分野は医学科の先生方に、栄養学は外部の先生をお願いしている。外部の先生の時間的な都合もあり3コマ続きの講義の設定を組まざるを得ないが同じ科目の3コマを集中して聞くのは少々つらいかもしれない。さらに今年度はカリキュラムの移行期で本科目が1年生に移動になったため本来であれば同じ講義を1年生と2年生に別々にやるべきところを講師の時間的制約のため合同講義として大講義室でおこなった。この点に関し学生より指摘があったが次年度は本来の姿に戻るの学生との距離感は近くなるであろう。限られた時間内で膨大な範囲を細かくカバーするのは不可能であることは明白で、重要なのはむしろ学んだことを基礎として自分で学習することであろう。その際の支援は自身が求めれば各教官から容易に得られるであろう。これに関連して少し気になるのは問1と問4の点数の低さである。学生諸君の評価の善し悪しの判断根拠に授業内容において重要点の指摘があるかないかが良く出てくるがこれは自分の勉強の結果自分で判断するものであって他人に指摘されるべきものではないのではないか。そういうトレーニングこそ大学生には必要なのではないか、と考える次第です。

科目名：疾病論（看護学科第2学年通年／必修）
履修者数：60 配付数：60 回収数：58 回収率：96.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.7	3.8	3.3	2.2	3.1	3.4	3.2	3.7	3.4	3.5	3.3	3.3	3.4	3.6

***評価に対するコメント**

疾病論コーディネーター 石川 一志

止むを得ない事情で、後期試験週に入る前に、コーディネーターを引き継いだ。本論の目的は、疾患に特有な徴候・症状を理解し、診断・治療に関する知識を習得して、健康回復への看護ケアの実践に役立てることである、と履修要項に記されている。

臨床各講座の先生方にオムニバス形式で講義を展開して頂いた。そのためか、講義の形式がバラバラなので統一してほしいという要望が多数寄せられた。諸先生の個性ある講義を楽しむぐらいの柔軟性を学生のほうに求めるのは無理なことであろうか。また、内容が膨大で難しいという指摘もあったが、もともと簡単な科目は無いので、学生自身の自学自習で克服してもらいたいと思う。質問という武器も学生にはあることをお忘れではあるまいか。ちなみに、問1が1.7点で、ほとんど予習をせず、一方、問4も2.2点と、復習もあまりしなかったようだ。もう少し自学自習を促すような工夫が求められているのかもしれない。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

⑤ 強くそう思う（非常に良い） ④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通） ② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：医用物理学実習（医学科第1学年後期／必修）
履修者数：102 配付数：101 回収数：98 回収率：97.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.8	4.3	4.0	4.1	3.4	3.9	3.5	3.8	4.2	3.7	3.7	2.9	3.1	3.6	4.0	3.7	3.6

***評価に対するコメント**

医用物理学実習コーディネーター 本間 龍也

2009カリキュラムのスタートに伴い、今年度から講義名も医用物理学実習へと変わりました。実習テーマも血圧の流体力学的な実験・考察など従来の型にはまった物理学実験から、より医学生に適したテーマを開発し徐々に移行しているところです。そのせいか実習内容についての評価がわずかではありますが改善しつつあります。ただ、昨年度から実施した手書きレポートの提出が、思いの外、不評で問13の項目が2点台となっています。ワープロの方が教員も読み易くかつ学生も便利なのですが、その反面、レポートの内容よりもワープロの打ち込み作業に時間をかける学生を多くみかけるようになりました。それ故、時代には逆行しますが、昨年度より手書きレポートの提出を課しています。しかし、今度は書く事ばかりに気を取られ、内容を深く考察しない学生も見られるようになりました。レポートのまとめ方・提出方法等を含め今後も改善の余地はあるようです。

科目名：基礎生化学実習（医学科第1学年後期／必修）
履修者数：115 配付数：107 回収数：84 回収率：78.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.2	4.8	4.3	4.0	4.0	3.8	3.9	3.8	3.8	4.1	4.0	3.7	3.6	3.4	3.4	4.0	4.0	3.8

***評価に対するコメント**

基礎生化学実習コーディネーター **中村正雄**

新カリキュラム対応による基礎生化学実習の変更点は下記の2つである。1, 実施時期を2年次初頭から1年次の12月へ。2, 実習期間をのべ8日間を2週間から、これを終日4日間行い1週間で終える。日程の過密さから心配されたように、コメントは指導する教員が足りない、ただただ3つのテーマを消化するだけであったなどの指摘が多かった。しかし学生諸君の評価は全般的に昨年より高い。このうち低い評価を受けたのは指導する教員が足りないなど指導に関する項目であった。あらかじめ細かな指導が集中する実習時間に、機器センターから協力をうけたが効果が十分ではなかったようだ。近年、器具の基本的扱いが身につけていない学生が増えている。この点評価で見ると、短期に集中する実習のほうが効果を挙げているように思える。次回は少し余裕のある日程に戻ります。

科目名：統計学実習（医学科第1学年後期／必修）
履修者数：102 配付数：95 回収数：81 回収率：85.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.6	4.6	4.5	3.7	3.7	3.5	3.4	3.3	3.9	3.7	3.7	3.6	3.8	3.3	3.8	4.0	4.0	3.6

***評価に対するコメント**

統計学実習コーディネーター **高橋龍尚**

20年度に比べ“問12：内容の難易度”や“問14：学習意欲”の回答が低値を示しました。提出レポートの完成度は例年に比べ低く、上記のアンケート結果と関係がありそうです。また、レポートの完成度が低いままであったのは、実習中の説明をよく聞かない学生の学習習慣とも関係しますので、実習に臨む姿勢について改善する必要があります。一方、個別の強化では、レポートや実習内容についてメール交換により、個々の能力と学習意欲に沿った対応を充実させたいと思います。

科目名：心理・コミュニケーション実習（医学科第1学年後期／必修）
履修者数：115 配付数：108 回収数：101 回収率：93.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.7	4.7	4.0	3.8	4.0	3.9	3.8	3.7	3.8	3.8	3.6	3.7	3.1	3.6	3.7	4.0	4.0	3.7

***評価に対するコメント**

心理・コミュニケーション実習コーディネーター **高橋雅治**

受講者自身についての評価では、出席と受講態度についての評価が高く、受講者が実習に対して熱心に取り組んでいたことが伺える。実習の計画や内容等についての評価は、ほとんどの項目が「普通」から「良い」の範囲（3.8～4.0）であり、ある程度よい評価が得られた。

一方、問13（レポートの量）については、3.1と比較的低い評価となった。これは、心理学実験で課した科学論文形式のレポート、及び、コミュニケーション基礎論で課されたレポートの作成が、学生にとって大きな負担となっていたためであると思われる。また、コミュニケーション基礎論の分野について、機器の使用法や、レポートのタイミングなどに関する建設的なコメントが寄せられた。今後は、これらのコメントを参考にしながら、実習内容の改善に取り組んでいく所存である。

科目名：基礎医学実習Ⅰ（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：94 配付数：93 回収数：89 回収率：95.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.2	4.6	4.4	4.3	4.5	3.7	4.3	3.9	4.3	4.4	3.9	3.9	3.9	4.3	4.1	4.2	4.2	4.4

***評価に対するコメント**

基礎医学実習Ⅰコーディネーター **吉田成孝**

今年度の基礎医学実習Ⅰも昨年の反省点をふまえてマイナーチェンジを行った。実習の内容の時間配分を再検討し、過度な負担がかからない様に変更した。しかしながら、学生の評価自体は昨年度より若干下がった。指導者の人数が少ないという不満が多かったが、系統解剖に関しては昨年度より増員して、これ以上増やすことは不可能なので、指導の効率性を上げることで対応していきたい。また、神経解剖実習が試験直前にまとめて行われることへの不満も多かったので、次年度からは名称が形態学実習となり、この点に配慮した日程を組む予定である。今年度は実習台からの排気が行われるようになり、ずいぶん環境がよくなった。また、次年度に向けてAV設備も格段に向上した。さらに充実した実習としていきたい。

科目名：社会医学実習（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：92 配付数：71 回収数：40 回収率：56.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.7	4.5	4.0	4.2	4.4	4.2	4.1	4.1	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	4.1	4.3	4.4	4.3

***評価に対するコメント**

社会医学実習コーディネーター **清水恵子**

社会医学実習として、健康科学と法医学が合同の実習となって5年目である。また、学生が小グループごとに分かれて個別実習を行い、最後にプレゼンテーションによって、全体で体験を分かち合う形式に両講座とも統一されて3年が経つ。健康科学分野は、例年の如く卒業後の研究に役立つ様な実際の研究に近い実習が実践された。学生の精力的参加により、実り多い実習であった。法医学分野の実習では、法医実務における各種検査を行うことで、科学捜査の極一端を体験し、そこから多様な考察を学生に自由に行っていた。学生からは、「学会形式での報告会は大変良い」との意見もあり、各学生が様々な実習に取り組み、発表会にて体験を分かち合うことは非常に有意義であったと考える。授業評価の評点は全て4点以上であり、社会医学実習開始以来年々向上している。学生サイドからの評価は概ね好評と言えよう。

科目名：生体観察実習（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.5	4.7	4.4	4.0	4.1	4.1	4.1	3.9	4.1	4.1	3.6	3.8	3.7	4.0	3.9	4.1	4.1	4.2

***評価に対するコメント**

生体観察実習コーディネーター **石川一志**

形態機能学で履修した内容のうち、特に重要と思われる項目について、人の生体と直接触れ合う実習を行い、形態機能学をよりよく理解する、というのが履修目的である。医学科の先生方の協力も得て、6項目の実習を5グループ総当り方式で実施したが、今年は止むを得ない事情により、実習の途中で一つの項目を変更した。学生は自分が参加しているという実感を持てるためか、形態機能学の講義よりも実習の方が好きな様で、評価も高かった。実習計画（問4～8）と実習環境（問15～17）は3.9～4.1点と概ねよい評価を頂いた。反面、心電計が古すぎるとの指摘もなされた。実習内容も3.6～4.1点とまざまざの評価だった。一方で、問1が3.5点とやや低く、資料を少し早く渡してほしいとの要望もあったので、今後改善したいと考えている。総合評価は4.2点と比較的良好な評価だったが、批判・要望には真摯に耳を傾け、一層充実した実習にしたいと思う。

科目名：基礎看護技術学Ⅰ（看護学科第1学年通年／必修）
履修者数：59 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.2	4.8	4.6	4.4	4.4	4.1	4.1	3.8	4.3	4.5	3.8	4.2	3.8	4.0	4.0	4.4	3.9	4.4

***評価に対するコメント**

基礎看護技術学Ⅰコーディネーター 升田 由美子

この科目は1年間にわたり基本となる看護技術を学びます。新しいカリキュラムとなり時間割が過密になっていますが、多くの学生は熱心に空き時間や放課後の時間を活用し、課題や自己学習に取り組んでいました。

各問に関する回答の平均は昨年度よりも上昇しており、特に問18の満足度は4.4と高く、評価としてはまずまずだと思います。問8担当者間の連携が3.8と他よりも低く、自由記載にも演習方法・内容が統一されていないという意見がありました。演習に先立って、指導に当たる教員は看護技術を実際に行い手技の確認をして、教育内容にずれがないように準備をしています。しかし、看護師・患者役の体格などの条件や説明時の表現などによっては指導内容が違うという評価につながった可能性があります。人が人に対して行うのが看護技術であるという特性上、やむをえない場合もあることを理解していただきつつ、指導教員によって違うことを教えていると感じた場合は、ぜひその旨を教員に伝えていただき、その後の問題解決につなげていきたいと思っております。2年生になってもがんばりましょう。

科目名：自然科学実験（看護学科第1学年後期／必修）
履修者数：60 配付数：57 回収数：49 回収率：86.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.8	4.8	4.4	3.7	4.3	4.0	3.9	3.8	3.6	3.9	3.7	3.6	3.2	3.5	4.0	4.1	4.1	4.0

***評価に対するコメント**

自然科学実験コーディネーター 林 要喜知

今年度評価の平均点（問4～18）は3.88で、昨年や一昨年ほぼ同じ（3.88,3.78）であった。項目別では、「レポート量や提出期限が適切であるか（問13=3.2）」という点の評価は低かった。このことは、具体的なコメントにあった「実習の展開時間帯の時間割が極めてタイトであったため、実習やレポート提出が本当に大変であった」という不満と関連していると推察される。本年度から新たなカリキュラムがスタートしており、実習時間割については再考すべきであろう。「実習全体の内容は満足のいくものであった」とか「教員の指導が丁寧であった」という評価が少なからずあるため、全体として満足できる実習であったと考えられる。今後も、カリキュラム改善にむけた話し合いの中で、実習時間割や実験レポートに関する点で改善をはかりたい。

科目名：実践看護技術学（看護学科第3学年通年／必修）
履修者数：67 配付数：67 回収数：67 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.7	4.5	4.0	4.3	4.0	3.9	3.7	4.0	4.0	3.7	3.8	3.8	3.9	3.8	4.1	4.0	3.9

***評価に対するコメント**

実践看護技術学コーディネーター 服部 ユカリ

学生の自己評価3項目の平均は4.4であり、例年通り高い。

演習計画の5項目の平均は4.0であったが、問8の指導者間の連携に関するものが3.8と低かった。

演習内容6項目の平均は3.9で例年に比べやや低かった。この中で最も低かったのは、例年と同様、技術の習得に関する項目で3.7であった。この科目は6領域から成り立っており、時間数は領域により異なる。技術の習得にかけられる時間数の差や70名の学生を3～4人で指導する領域と2人で指導せざるを得ない領域があり、より密度の濃い演習を実施するための方策が今後の課題である。学生の看護実践能力を向上させるために今後さらに改善を図る必要がある。演習環境の3項目の平均は4.0であり昨年度とほぼ同様であった。全体については3.9であり、昨年・一昨年に比べ低やや低かった。

自由記載の中に、複数領域の演習を一つの科目として評価する事に疑問を呈しているものがあつた。これは、この科目が立てられて頃よりも看護教育の中で専門分化が進んだためとも言え、新しいカリキュラムでは、その点に配慮している。

臨地看護実習企画に対する学生評価

実習計画	問1 実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 問2 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実習内容	問3 実習の内容は関連する講義科目と対応ができていた。 問4 実習中に課せられた記録・提出物の量は適切であった。 問5 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 問6 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 問7 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 問8 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実習環境	問9 教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 問10 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総合評価	問11 実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 問12 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
④ やや思う (良い)
③ どちらとも言えない (普通)
② あまりそう思わない (あまり良くない)
① 全くそう思わない (良くない)

科目名：看護過程論実習（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：57 回収数：55 回収率：96.5%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.1	3.9	3.9	3.7	4.1	4.0	3.6	3.9	3.9	3.9	4.0	4.1

*評価に対するコメント

看護過程論実習コーディネーター 升田 由美子

評価は問11看護職者を目指す意欲が4.0、問12満足度が4.1であり、一定の成果をあげたと思います。問7受け持ち患者の難易度の平均評価は3.6でした。初めて患者を受け持つ実習であり、できるだけ学生のレベルに適した状況の患者さまを受け持たせていただくよう、臨床指導者と協力して実習体制を整えています。ただし、予想し得ない臨床現場の状況・患者さまの変化などにより、難しいと感じた学生もいたと思います。実習は臨床で行うものであるゆえに同じ条件で実習することは難しく（同じ患者さんは二人としない）、学生により体験することも学ぶことも違いが出てくるものです。多様な学びに出会い、それをグループメンバーやクラスメイトと（守秘義務に抵触しない範囲で）共有することで自分の学びを広げてほしいと思います。今年度も学生を前半後半に分けて、2クールで実習を展開しましたが、いずれにも長所・短所があり一部の学生からは不公平感の訴えもありました。できるだけよい実習環境を整えるように、体制の見直しを行う予定です。

科目名：小児看護学実習Ⅰ（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：58 配付数：53 回収数：50 回収率：94.3%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.4	3.3	3.3	4.1	3.0	3.1	4.0	3.4	3.3	3.8	3.7	3.9

*評価に対するコメント

小児看護学実習Ⅰコーディネーター 岡田 洋子

学生の評価で低かったのは、「教員・指導者からの助言、説明」についての項目であった。現代の学生は、小児と接する機会が少なく成長してきた者が多い。そのため、実習では、直接、子どもと係わること、つまり実習体験を通じて小児を体感することが重要であると考え、実施している。次年度も、必要時、教員・指導者に助言・指導を求めることは大歓迎であると、ガイダンスやカンファレンスで再確認しつつ、実習の意義（体験を通じて小児を体感すること）について動機付けを図っていきたい。

科目名：老年看護学実習（看護学科第3学年後期／必修）
履修者数：58 配付数：52 回収数：49 回収率：94.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.7	3.7	4.2	3.9	3.9	3.7	3.9	4.0	4.0	4.1	4.1	4.0

***評価に対するコメント**

老年看護学実習コーディネーター **服部 ユカリ**

問1のガイダンスに関するものと、問2の実習指導教員と実習指導者の連携、問6の教員・実習指導者の説明のわかりやすさに関するものが3.7で他と比べ低かった。ガイダンスに関しては、次年度からさらに工夫してわかりやすいものになりたい。

問2、問6に関しては、教員配置の関係上、非常勤講師に実習指導を依頼せざるを得なかったことも関係していると思われる。今年度も非常勤講師の研修等を行ったが、来年度以降はさらに密な連携を図りたい。

最も評価が高かったのは、問3の講義科目との対応で4.2であった。実習や看護実践に役立つ講義となるよう今後も努めたい。

問11の実習によって看護職者を目指す意欲が十分に高まったかという問は、4.1であり、高齢者を苦手とする学生が多い傾向の中では良いと評価だと思う。問12の全体評価でも4.0であり、良い実習ができたといえる。

科目名：地域保健看護学実習Ⅰ（看護学科第3学年・編入4学年後期／必修）

履修者数：68 配付数：62 回収数：49 回収率：79.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.3	4.2	4.3	3.9	4.4	4.5	4.3	4.5	4.6	4.5	4.4	4.5

***評価に対するコメント**

地域保健看護学実習Ⅰコーディネーター **北村 久美子**

実習の目的は、地域で生活している人々の看護を体験し地域保健・看護活動を実践できる基礎的態・能力を養うことである。本実習は、3学年後期10月、11月にわたる大学近郊の町村役場と市内の訪問看護ステーションでの実習である。

町村役場の実習は、上川町・当麻町・鷹栖町・東神楽町・上富良野町・富良野市で、訪問看護ステーションは、例年受けて頂いている市内6施設であった。講義・演習・実習を一貫させた教育プログラムの基に、実習前には看護技術演習、学生個々に実技試験を行い実習に望んだ。町村役場の実習では実習前に実習町に出向き地区視診（地区診断）を行った。実習指導体制として恒例の実習指導者会議を3月実習評価会と9月実習打合せを行い教員と実習指導者として綿密な実習準備を行った。

評価は、「この実習は全体的に満足できるものであった」4.5点であった。昨年度は4.3点で0.2点あがった。最も高かったのは「教員・実習指導者の対応は学生を尊重したものであった」4.6点であった。「記録・提出物の量は適切であった」3.9点を除く他はすべて4.2点以上であった。学生は、教員に依存する傾向が見られるので学生自ら課題を持ち実習指導者とコミュニケーションを図り積極的に相談・助言を得る姿勢・態度をもち満足できる指導方法を工夫していきたい。

科目名：成人看護学実習Ⅰ（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：58 配付数：58 回収数：45 回収率：77.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.2	4.0	3.9	3.6	4.1	4.1	4.0	3.7	4.0	4.2	3.8	4.0

***評価に対するコメント**

成人看護学実習Ⅰコーディネーター **阿部 修子**

「成人看護学実習Ⅰ」は、1週目を手術室見学実習・ICU見学実習・学内での看護技術演習、2・3週目を消化器外科病棟・呼吸循環器外科病棟での病棟実習で構成しています。

手術室見学実習とICU見学実習では、学生から「貴重な体験ができた」と概ね好評ですが、看護技術演習は「課題が多すぎる」という意見もあります。しかし、「この演習が、病棟実習で役立った」という意見もあり、学生が「活用できた」と実感できるように学内演習内容を検討していこうと思います。

病棟実習では、周手術期の看護を実習していくため、展開が速く、難易度の高い受け持ち患者が多いのですが、患者の難易度は適切とする得点も高く、病棟のご協力と適切な患者選択や指導が受けられていたためと考えます。しかし、記録や課題に関する得点が3.6（昨年3.9）、カンファレンスに関する得点が3.7（昨年4.0）と低下しています。課題や記録は昨年度と変更はしていませんが、日々の記録に時間がかかる学生が多かったことも影響していると考えます。またカンファレンスも、活発な討論にならない場合もあり、今後は学生の記録を書く能力や討論の能力などの強化も含め、実習指導を考える必要があります。

科目名：成人看護学実習Ⅱ（看護学科第4学年前期／必修）
履修者数：58 配付数：58 回収数：45 回収率：77.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.9	3.5	3.7	3.8	3.8	3.7	3.9	3.7	3.8	3.9	3.8	3.7

***評価に対するコメント**

成人看護学実習Ⅱコーディネーター **加藤 千津子**

「成人看護学実習Ⅱ」は、慢性疾患をもち生涯コントロールを要する対象者、あるいは人生の終焉を迎える終末期にある対象者の看護を行う実習で、1グループ5～6名の学生が3週間、病棟で実施しています。

21年度は病気とともに生きている慢性期や終末期にある対象者の理解を深めるため、発達課題や社会的役割などの心理・社会的側面を加えた「情報収集・アセスメントガイドライン」「セルフアセスメントシート」を提示して実習を行いました。およそ半数の学生が使用し、患者理解の深化が認められましたので、22年度はさらに工夫をする予定です。3週間の実習期間を有効に活用して、慢性状況および終末期にある対象者の理解と、対象者のセルフケア能力に焦点を当てた看護に期待するところです。

21年度の学生評価は、全項目の平均値が前年度に比べ0.5ポイント（20年度4.3、21年度3.8）低下し、特に「指導教員と実習指導者の連携」が3.5点と最も低値を示しました。大学および病棟の学生指導の問題や、いわゆる「ゆとり世代」の学生の特性とのミスマッチなどが考えられたため、改善に向けて実習先病棟看護管理者と教員の話し合いを実施しました。そのほか、カンファレンスに関する得点も3.8点と低く、カンファレンスの内容の充実も含めて取り組む必要があります。

科目名：母性看護学実習（看護学科第4学年前期／必修）
履修者数：58 配付数：58 回収数：45 回収率：77.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.9	4.1	4.2	3.6	4.0	4.0	3.9	3.5	3.8	4.0	3.8	4.0

***評価に対するコメント**

母性看護学実習コーディネーター **黒田 緑**

母性看護学実習は、臨床において展開の早い対象に対応した看護過程の展開ができるように、3週間の実習の1週目を演習期間としている。学生は知識・技術の想起を含めて事例の看護過程の展開を演習し病棟実習に臨む。病棟ではローリスクの産婦が少ないこと、複数校の実習生を含め同時に10名以上の実習生が実習を行うなど、受持対象選定に苦慮している状況である。評価結果の看護過程の展開の記録量については、思考を整理する上で文章化することは重要である。量ではなく質に重点を置いた指導が必要と考える。また、有効なカンファレンスについての評価は、実習期間もカリキュラムも異なる数校の実習生が同一テーマについて全員でカンファレンスを行うことに無理があることも考えられる。開催の方法など再考する必要があると思われる。

科目名：精神保健看護学実習（看護学科第4学年前期／必修）
履修者数：58 配付数：58 回収数：45 回収率：77.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.1	2.4	3.3	3.6	3.6	3.4	3.6	3.6	3.8	3.8	3.4	3.5

***評価に対するコメント**

精神保健看護学実習コーディネーター **作宮 洋子**

精神保健看護学実習は旭川医科大学病院及び旭川圭泉会病院の2病院で行っており、内容は9日間の臨床看護実習と、最終日一日は通院や経過観察や社会復帰支援への理解を深めるためにデイケア施設での実習です。実習を終え、学生さんからは各ライフサイクルのメンタルヘルスや、人と人との関係性の複雑さや難しさを知った、また、心と体の関連や個性への着眼も大切さ精神保健看護の役割の重要性を感じたなど様々な感想が寄せられました。このように精神保健看護の実習体験からは幅広い学びがあるのだと思われます。多岐の現場のニーズに対応して、確実な看護実践力、深い洞察力、柔軟で豊かな思考力を培うことが重要です。実習の充実に向けて、今後とも病院実習指導者の方々と協力して務めていきたいと考えております。

科目名：小児看護学実習Ⅱ（看護学科第4学年前期／必修）
履修者数：58 配付数：58 回収数：45 回収率：77.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.3	2.9	3.2	3.6	3.0	2.9	3.6	3.4	2.8	3.4	3.1	3.2

***評価に対するコメント**

小児看護学実習Ⅱコーディネーター **岡田 洋子**

学生からの評価は全般に3.0前後と低い。平成20年度と21年度では評価項目が変更になっており、単純に比較することはできない。しかし、ほぼ同様な意味内容の質問項目で比較してみると、「教員と指導者の連携」「尊重した対応」に関する評価が低いままである。連携については、ケアの実施時間が重なる状況下で教員と実習指導者のどちらが指導を行うかということが不明確な時があり、学生が混乱したのではないかと考える。来年度は、教員と実習指導者間の行動・連絡調整を密にしていきたいと考える。尊重した対応については、初めての経験で不安の強い学生に対して、どのようなかわりが学生を成長に導くのかの視点を見失わず、適切な対応を心がけたいと考える。

科目名：地域保健看護学実習Ⅱ（看護学科第4学年後期／必修）
履修者数：68 配付数：62 回収数：51 回収率：82.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.2	4.3	4.2	3.8	4.0	4.1	3.6	4.1	4.3	4.1	3.9	4.1

***評価に対するコメント**

地域保健看護学実習Ⅱコーディネーター **北村 久美子**

実習施設は、北海道庁から言い渡され年々減少し今年度から上川保健所と旭川市保健所の二つの施設となった。そのため1施設の実習学生数が約35名と多く学生に満足に行く実習をいかに効果的に行うかについて複数の保健所職員に大学まで来て頂き打ち合わせ会議を開催し、その後も教員が詳細に連携を取り実習準備を行った。学生が実習に興味・関心が持て主体的に取り組めるよう実習前・中をおし実習指導を行った。その結果、ほとんどの項目の評価が高く総合評価は4.1点であった。指導体制として教員・指導者数は不足しているが教員と指導者の連携がよくとれているという学生の評価であった。しかし、「実習期間が短い」「実習生が多すぎ学びが深まらない」「住民と接する機会がない」「保健師の看護実践が見えない」「保健師を目指す人には物足りない実習ではないか」など、例年同様実習期間が短いことに関する多くの意見があった。学生の多くは看護師就職希望者であり、保健師活動に関心を向けることは今年も並大抵のことではなかった。保健師職の専門性を強化した実習方法の変革が求められる。3月に実習指導者と実習評価会を予定しており、実習施設側の意向を尊重しつつ学生にとって満足感が得られ有意義な実習となるよう検討したい。

平成21年度 学位記授与式

平成20年度学位記授与式が、3月25日（水）10時30分から本学体育館において挙行されました。

本学の室内合奏団が奏でる調べのなか入場し、医学科96名、看護学科68名、合わせて164名の卒業生一人一人に学長から学位記が授与されました。

引き続き、博士課程8名、論文博士4名、修士課程18名にも学位記が授与されました。

なお当日は、別室にて成績優秀者への学生表彰も行われました。

式の終了後は、学生食堂を会場として祝賀会が開催され、医学科・看護学科それぞれの学年担当の先生や同窓会の会長からの祝辞、在校生から送辞が贈られ本学の学生としての最後の一時を噛み締めているようでした。



▲笑顔で学位記を渡す吉田学長



▲成績優秀者の表彰



▲卒業生と握手をする吉田学長

平成22年度 入 学 式

医学科・看護学科の入学式が4月6日（火）10時から本学体育館において挙行されました。

式では、医学科112名、看護学科60名、看護学科第3学年編入生10名、合わせて182名の新入生を代

表して医学科 安立 雄輝さんが宣誓を行い、医学生・看護学生としての自覚を新たに、大学生活の第一歩を踏み出しました。



▲吉田学長祝辞



▲宣誓書を受取る吉田学長



▲入学生代表宣誓

平成22年度 医学科・看護学科新入生合同研修会が実施されました

平成22年度医学科・看護学科新入生合同研修会が4月7日（水）8日（木）の2日間にわたり実施されました。

一日目は、9時から看護学科棟大講義室に集合し、千石学長補佐の挨拶に始まり、指導教員の紹介等オリエンテーションの後、吉田晃敏学長により「新1年生に望むこと」と題した講演が行われました。続きまして「2009カリキュラム履修上の注意」と題したガイダンスが解剖学講座（機能形態学分野）吉田成孝教授 並びに看護学講座 望月吉勝教授により行われました。続きまして本学医学部微生物学講座の若宮伸隆教授による「エイズの現状とその課題について」の講演が行われ午前の部が終了しました。

午後からは、旭川消費者協会の山下三千世氏による「悪質商法の事例と防止策」、引続き保健管理センターの川村祐一郎教授と藤尾美登世保健師により「健康的な学生生活を送るには－ほけかんとどう付き合うか－」と題した学生生活における注意と保健管理センターの利用方法の説明が行われ、続いて本学内科学講座（消化器・血液腫瘍制御内科学分野）鈴木康秋講師（学内）による「お酒との正しい

つきあい方」、最後は内科学講座（循環・呼吸・神経病態内科学分野）長谷部直幸教授による「医学生らしい生活習慣のススメ」の講演を聞き一日目が終了しました。

二日目の午前は、グループ毎に分かれて「大学生活をいかに過ごすか（教員・先輩・患者様との接し方）」、「どのような医療従事者を目指したいか」という課題についての討論とグループ代表による発表会が行われました。最初はぎこちなかった討論も時間が経つにつれて真剣さを増し白熱した意見を戦わせるほどになりました。また、発表にあたっては、ここぞとばかりに流暢なスピーチで会場を沸かせてくれたり、予備校講師のような物まねがあったり、身振り手振りの寸劇を交えた発表があったり、またイラストなどに隠れた才能を発揮したりと驚かされる場面が多々ありました。

午後からは、グループ毎に分かれて救急医学講座 藤田 智准教授の指導の下に先輩学生や卒業生からの救急蘇生実習と旭川ろうあ協会のろう講師により手話の講習を受け、ぎこちない動きの中にも医療現場に携わる道を選んだ者として、雰囲気十分に味わったようでした。



▲吉田学長の講演



▲班別討議（討論中です）



▲班別討議の講評

訃報



本学小児科学講座藤枝憲二氏（62才）には、平成22年3月19日（金）逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、平成12年11月16日教授に就任され、本学の管理運営、医学の研究、学生の教育・研究指導に限りない熱情を注がれ、医学の発展にご尽力され、その功績は誠に顕著でありました。

また、学術研究面では小児内分泌代謝学の分野に

おいて先天性副腎疾患や性分化疾患の臨床研究及び分子遺伝学的原因の究明に関する調査研究にご尽力され、本邦における先天性副腎疾患の病態の解明並びに新たな疾患概念を打ち立てる基盤を世界に先駆けて発見されるなど、この学問分野を代表する世界的研究者であり、さらに医療保健・厚生行政や地域社会に対しても多大な貢献をされ、その優れた功績は高く評価されております。

この度、生前の功績により、正五位瑞宝小綬章を授賞されました。（総務課）

教員の異動

H22. 3 .19	逝	去	医学部	小児科学講座	教授	藤	枝	憲	二
H22. 3 .31	辞	職	医学部	生理学講座（自律機能分野）	准教授	橋	本	眞	明
H22. 3 .31	辞	職	医学部	病理学講座（腫瘍病理分野）	准教授	柳	沼	裕	二
H22. 3 .31	辞	職	医学部	脳神経外科学講座	准教授	程	塚	明	志
H22. 3 .31	辞	職	病院	総合診療部	准教授	丹	野	誠	志
H22. 3 .31	辞	職	病院	第一内科	講師	相	澤	仁	志
H22. 3 .31	辞	職	病院	第二外科	講師	稲	垣	光	裕
H22. 4 .1	昇	任	医学部	生理学講座（自律機能分野）	講師	宮	津	基	
H22. 4 .1	採	用	病院	第一内科	講師	片	山	隆	行
H22. 4 .1	採	用	病院	総合診療部	講師	野	津	司	

医大祭2010に向けて

旭川医科大学大学祭実行委員会

実行委員長 佐藤 みちる



来る6月11日（金）、12日（土）、13日（日）に第36回目となります「医大祭2010」が開催されます。今年のテーマは「旭ism～旭医はまだ本気を出していない～」です。「旭医」と「ism（～主義）」をかけたテーマには、旭川らしさ、医科大学らしさに徹底的にこだわった学祭にしたいという願いが込められています。

旭川らしさとは何かと考えた時、まず思い浮かぶのは何でしょうか？やはり「旭山動物園」ではないでしょうか。なんと、今年の講演会では坂東園長にお話を聞かせて頂けることになりました!!!

医科大学らしく、医学展や健康チェックもやります。今年は、一味違った内容となっているので、是非ぜひご来場下さい！公開講座では救急医学講座の藤田 智先生を講演者としてお招きしております。

しかし、なんといってもお祭りです。毎年恒例となっている「お笑いライブ2010」には「ハライチ」「Wコロシ」「ゴージャス」「流れ星」の豪華4組の芸人さんが登場します!!! 模擬店、花火、ゲーム、フリーマーケットなども、お楽しみください。

新たなイベントとして「旭川美少女図鑑×旭医FES2010」と題し、カメラテストを行うことになりました！美少女がたくさんいると……思われる本学から、たくさんエントリーがあることを期待しています。

現在、全スタッフが総力をあげて本気で準備に邁進しております。今していることが、ご来場頂いた方々の楽しみ、喜びにつながれば、それは何よりもの報酬です。

6月第2週の土日である12日と13日は一般公開の日となっておりますので是非、旭川医科大学にお越しください！お待ちしております。